テノ費用、賣主ヨリ其保証人ト為レ呼出ス費
用及ヒ其他総テ買主ノ受ケタル損失又ハ其
共ノタル當然ノ利益ヲ保含ス可シ

第三百七十九條

後直打ハ減シタル時ト雖モ其原由ノ如何ヲ
問ハス其代價ノ全部ヲ還サヽル可カラス

第三百八十條　又

後直打ノ増シタル時ハ其代價ノ上ニ直打
ノ増シタル高ヲ賣主ハ買主ノ其物品ニ付キ
出シタル有益ノ費用ヲ償フ可シ但シ其物品
ニ付キ所有ノ権ヲ取還レタル者其費用ヲ償
フ可キ時ハ格別トス

第三百八十二條

若シ賣主ノ不正ナル時ハ買
主ノ其物品ニ付キ出シタル奢侈ノ費用ヲモ
亦償フ可シ

第三百八十三條

若シ買主其買入レタル物品
ノ一部ノ所有ノレタル物品ニ付キ賣買ノ契約前ヨリ目ニ觸
レサル土地ノ義務アリテ賣主其義務アルヿ

ヲ告知セサル時買主其物品ノ一部ヲ奪ハレ又ハ其負フタル土地ノ義務頗ル重大ニシテ若シ買主初ヨリ之ヲ知ラハ其物品ヲ買入ルヽヿナカル可シト思料ス可キニ於テハ法律上ニテ其物品ノ一部ヲ奪ハレ又ハ土地ノ義務ヲ負フタルヲ以テ物品ノ全部ヲ奪ハレタルト同視ス可ス

第三百八十四條　前條ノ場合ニ於テハ買主ノ隨意ニテ賣買ノ契約ヲ保チ置クヿヲ得可シ然レ𪜈買主ハ書入質ノ権ヲ有スル債主ノ権利ヲ害シ其賣買ノ契約ヲ取消ス可カラス

第三百八十五條　若シ買主ノ賣買契約ヲ保チ置ク時又ハ物品ノ一部ヲ奪ハレ或ハ土地ノ義務ヲ負フタルト雖モ之レカ為メ賣買契約ノ取消ヲ允許スルニ足ラサル時ハ買主其所有ノ権ヲ奪ハレタル時ノ其物品ノ實價ニ准シ其奪ハレシ一部ノ代價ヲ賣主ヨリ取還サントト求メ又土地ノ義務ヲ負フタル時ハ裁判所ヨリ言渡シタル損失ノ償ヲ賣主ヨリ得シト求ムルヿヲ得可シ

第三百八十六條　賣買シタル物品ニ二種以上ノ瑕疵アルトキハ買主ハ其賣主ノ計算ヲ以テ之ヲ分離シ瑕疵ノ爲メニ解除ヲ請求シ得ヘキ者ヲ賣主ニ返還シ瑕疵ナキ者ヲ買主ニ保存スルコトヲ得ル事

第三百八十七條　賣主ハ其賣リタル物品ニ瑕疵ナキ者ヲ保証スルコトヲ得ヘシ

賣主ハ其物品ノ直打ヲ減セラルヘキ不良ノ所アルトキ又ハ其物品ヲ當然ノ用法ニ供スルコトヲ得サル不良ノ所アルトキ者ヲ保証スルコトヲ得ル事

第三百八十八條　賣買ノ時ハ買主ハ其賣リタル物品ニ瑕疵ナキ者ヲ保証スルコトヲ得ヘシ

賣主ハ其物品ノ直打多分ニ減シ若シ買主初メヨリ之ヲ知ラハ其物品ヲ其當然ノ用法ニ供スルコトヲ得サル不良ノ所アルトキ者ヲ保証スルコトヲ得ル事

第三百八十九條　賣買ノ時ハ買主ハ其賣リタル物品ニ瑕疵ナキ者ヲ保証スルコトヲ得ヘシ

賣主ハ其物品ノ直打多分ニ減シ若シ買主初メヨリ之ヲ知ラハ其物品ヲ其當然ノ用法ニ供スルコトヲ得サル不良ノ所アルトキ者ヲ保証スルコトヲ得ル事

第三百九十條　賣買ノ時ハ買主ハ其賣リタル物品ニ瑕疵ナキ者ヲ保証スルコトヲ得ヘシ

賣主ハ其物品ノ直打多分ニ減シ若シ買主初メヨリ之ヲ知ラハ其物品ヲ其當然ノ用法ニ供スルコトヲ得サル不良ノ所アルトキ者ヲ保証スルコトヲ得ル事

第三百九十一條　賣買ノ時ハ買主ハ其賣リタル物品ニ瑕疵ナキ者ヲ保証スルコトヲ得ヘシ

賣主ハ其物品ノ直打多分ニ減シ若シ買主初メヨリ之ヲ知ラハ其物品ヲ其當然ノ用法ニ供スルコトヲ得サル不良ノ所アルトキ者ヲ保証スルコトヲ得ル事

第三百九十二條　賣買ノ時ハ買主ハ其賣リタル物品ニ瑕疵ナキ者ヲ保証スルコトヲ得ヘシ

賣主ハ其物品ノ直打多分ニ減シ若シ買主初メヨリ之ヲ知ラハ其物品ヲ其當然ノ用法ニ供スルコトヲ得サル不良ノ所アルトキ者ヲ保証スルコトヲ得ル事

第三百九十三條　賣買ノ時ハ買主ハ其賣リタル物品ニ瑕疵ナキ者ヲ保証スルコトヲ得ヘシ

賣主ハ其物品ノ直打多分ニ減シ若シ買主初メヨリ之ヲ知ラハ其物品ヲ其當然ノ用法ニ供スルコトヲ得サル不良ノ所アルトキ者ヲ保証スルコトヲ得ル事

第三百九十四條　賣買ノ時ハ買主ハ其賣リタル物品ニ瑕疵ナキ者ヲ保証スルコトヲ得ヘシ

賣主ハ其物品ノ直打多分ニ減シ若シ買主初メヨリ之ヲ知ラハ其物品ヲ其當然ノ用法ニ供スルコトヲ得サル不良ノ所アルトキ者ヲ保証スルコトヲ得ル事

第三百九十五條　賣買ノ時ハ買主ハ其賣リタル物品ニ瑕疵ナキ者ヲ保証スルコトヲ得ヘシ

賣主ハ其物品ノ直打多分ニ減シ若シ買主初メヨリ之ヲ知ラハ其物品ヲ其當然ノ用法ニ供スルコトヲ得サル不良ノ所アルトキ者ヲ保証スルコトヲ得ル事

第三百九十六條　賣買ノ時ハ買主ハ其賣リタル物品ニ瑕疵ナキ者ヲ保証スルコトヲ得ヘシ

賣主ハ其物品ノ直打多分ニ減シ若シ買主初メヨリ之ヲ知ラハ其物品ヲ其當然ノ用法ニ供スルコトヲ得サル不良ノ所アルトキ者ヲ保証スルコトヲ得ル事

第三百九十七條　賣買ノ時ハ買主ハ其賣リタル物品ニ瑕疵ナキ者ヲ保証スルコトヲ得ヘシ

賣主ハ其物品ノ直打多分ニ減シ若シ買主初メヨリ之ヲ知ラハ其物品ヲ其當然ノ用法ニ供スルコトヲ得サル不良ノ所アルトキ者ヲ保証スルコトヲ得ル事

第三百九十八條　賣買ノ時ハ買主ハ其賣リタル物品ニ瑕疵ナキ者ヲ保証スルコトヲ得ヘシ

賣主ハ其物品ノ直打多分ニ減シ若シ買主初メヨリ之ヲ知ラハ其物品ヲ其當然ノ用法ニ供スルコトヲ得サル不良ノ所アルトキ者ヲ保証スルコトヲ得ル事

第三百九十九條　賣買ノ時ハ買主ハ其賣リタル物品ニ瑕疵ナキ者ヲ保証スルコトヲ得ヘシ

賣主ハ其物品ノ直打多分ニ減シ若シ買主初メヨリ之ヲ知ラハ其物品ヲ其當然ノ用法ニ供スルコトヲ得サル不良ノ所アルトキ者ヲ保証スルコトヲ得ル事

第四百條　賣買ノ時ハ買主ハ其賣リタル物品ニ瑕疵ナキ者ヲ保証スルコトヲ得ヘシ

賣主ハ其物品ノ直打多分ニ減シ若シ買主初メヨリ之ヲ知ラハ其物品ヲ其當然ノ用法ニ供スルコトヲ得サル不良ノ所アルトキ者ヲ保証スルコトヲ得ル事

約ニ付テノ費用ヲ還サレノ又ハ恢議シタル
價ニテ其物品ヲ保千置クノ自由ナリトス

第三百八十九條　若シ特ニ定メタル數箇ノ物
品ヲ賣買シタル時ニ買主其物品引取ノ前ニ其
數箇中ノ一部ノミニ付キ不良ノ所アルヲ見
出シ其賣買ノ契約ヲ取消ス可キ權アル時ハ
買主其全部ニ付キ其契約ヲ取消サヽルヲ得
ス

第三百九十條　若シ買主其物品ヲ引取リタル
後ニ不良ノ所アルヲ見出シタル時ハ買主其
不良ナル物品ノミニ付キ賣買ノ契約ヲ取消
スヿヲ得可シ但シ其物品ヲ他ノ物品ト分チ
損害ヲ生スル時ハ此限ニ在ラス

第三百九十一條　若シ前條ノ場合ニ於テ其種
類互ニ相易ユルヲ得可キ物品ニ付テハ買主
其引取ノ後ト雖モ其物品ノ一部ノミニ付キ
賣買ノ契約ヲ取消スヿヲ得可シ

第三百九十二條　目的ニ觸レサル不良ノ所アリ
ト雖モ之レカ為メニ至ラサル賣買ヲ妨クルニ至ラサル
時ハ買主其不良ニ准シ其價ヲ減セシム

可キ権ヲ有スル
人ノ定ムル所ニ従フ可シ

第三百九十三條　其減價ヲ計ルニハ不良ナラサル物品ノ真ノ直打ト其現在ノ有様ニ於テ真ノ直打ト比較シ其約合ヲ契約シタル價ニ照合ス可シ

第三百九十四條　主ノ知リ得タル不良ノ所及ヒ買主之ヲ保証スルニ及ハス又賣主目ニ觸ル、不良ノ所及ヒ買主目ニ觸レサル不良ノ所アリトモ之ヲ保証セサルコトヲ契約シタル時ハ其保証ノ義務ナシトス但シ賣主自カラ其不良ノ所アルヲ知リタルノ証アル時ハ格別ナリトス

第三百九十五條　但シ其減價ハ評價人ノ定ムル所ニ従フ可シ

第三百九十六條　賣買ノ時ヨリ在来ノ不良ナル所ヲ指シ奮キモノト云ヒ又特ニ定メサル物品ニ付テハ引

渡ノ時ヨリ在来ノ不良ナル所ヲ指レ舊キモノト云フ

第三百九十八條

舊キ不良ノ所若シ特ニ定メタル物品ニ付キ不良ノ所生レタル時又特ニ定メサル物品ニ付キ舊キ不良ノ所アリテ其賣買ノ後更ニ新ナル不良ノ所生レタル時又ハ買主或ハ其新ナル不良ノ所アル物品ヲ引取リタル後其損様ヲ変易レタル時ハ買主其賣買ノ契約ヲ取消スヲ得ス但シ新ナル不良ノ所消滅シ又ハ賣主新ナル不良ノ所アル旨ヲ承諾シタル時ハ格別ナリトス

買主ハ右ノ場合ニ於テ減價ヲ求ムルヲ得可キ其減價ハ第三百九十三條ノ規則ニ循ヒ之ヲ計ル可シト雖モ新ナル不良ノ所又ハ損様ノ変易ヲ其驚キ不良ノ所アルニ因リ前ニ記シタル如ク償還中ニ加フ可カラス

第三百九十九條

物品ノ滅尽シタル時ハ賣主其損失ヲ擔当レ其時ノ損様

及ヒ損失ノ償ヲ爲ス可シ

又舊キ不良ノ所アル物品新ナル不良ノ所生シタルニ因リ又ハ偶然ノ事起リタルニ因リ全ク滅尽シタル時モ賣主其損失ヲ擔当ス可シ但シ之レカ為ヽニハ舊キ不良ノ所アル証アリテ且減價ヲ為ス可キ時ハ其減價ヲ計リ得可キヿヲ必要トス

第四百條　目ニ觸レサル不良ノ所アルニ付テノ訴訟ハ其不良ノ所アルヲ見出シタル時ヨリ八日内ニ之ヲ為ス可シ若シ其期限内ニ之ヲ為サヽル時ハ訴ヲ為スノ権ヲ失フ可シ

第四百一條　買主其物品ニ不良ノ所アルヲ見出シタル後之ヲ已レノ随意ニ為ス所為ヲ行フタル時ハ其不良ノ所アルニ附テノ訴訟ヲ為ス権ヲ失フ可シ

第四百二條　商品ノ減量ニ付テハ商業ノ習慣ニ従フ可シ

第四百三條　裁判所ノ命又ハ行政官ノ命ニテ物品所在ノ場所ニ於テ之ヲ糶賣ニ為シタル時又ハ物品ヲ検視シ得可キ場合ニ於テ之ヲ糶

賣ニ為レタル時ハ其物品ニ目ニ觸レサル不良ノ所アルヲ以テ訴訟ヲ為ス可カラス

第三節

第四百四條　買主ハ契約書ニ定メタル期限ト場所トニ於テ其代價ヲ拂フ事

可シ

第四百五條　別段ノ契約アラサル時ハ物品引渡ノ場所ニ於テ現金ニテ代價ヲ拂フ可シ

第四百六條　若シ期限アル時ハ買主ノ住所ニ於テ代價ヲ拂フニ付テノ猶豫ノ

可シ

第四百七條　然レトモ此等ノ事ニ付テハ其地ノ習慣及ヒ商業ノ習慣ニ從フ可シ

第四百八條　代價ヲ拂フ可キ期ニ至リ買主之ヲ拂フ可キ催促ヲ受ケシ時ヨリ後ニ非サレハ其代價ニ付テ利足ヲ拂フコトヲ要ス可シ

但シ別段ノ契約アル時ハ格別ナリトス

第四百九條　買主ハ其賣買前ニ得タル權ヲ有スル者又ハ賣主ヨリ權ヲ得タル者ノ為メ其買入レタル物品ノ有スルニ妨害ヲ受ケシ時

又ハ他人ノ為メ其買入レシ物品ヲ有スルニ
妨害ヲ受クルノ虞アル時ハ其妨害ノ消散
シ又ハ其虞慮ノ消除スルニ至ル迄其代價ヲ
已レニ引留メ置クヲ得可シ但シ別段ノ契
約アル時ハ例外トリトス

第四百十條　然レトモ賣主ハ前條ノ場合ニ於テ
保証人ヲ立テ代價ヲ得ンコトヲ要ムルヲ得可
シ

第四百十一條　若シ買主契約シタル期日ニ至
リ代價ヲ拂ハサル時ハ賣主書入質ノ権アル
債主ノ権利ヲ害セサル様其賣買ノ契約ヲ解
除スルヲ要メ又買主ヨリシテ其代價ヲ拂ハ
レハ可キ裁判言渡ヲ得ルヿ自由ナリトス

第四百十二條　裁判所ニ於テハ至重ナル道理ア
ル時ハ買主ニ代價ヲ拂フニ付キ相当ノ猶豫ヲ
許ルスヿヲ得可シ但シ別段ノ道理アル時ハ
其賣買シタル物ヲ他人ニ附託ス可キヿヲ
言渡ス可シ

第四百十三條　一度猶豫ヲ許シタル時ハ更
ニ猶豫ヲ許ルスヿヲ得ス

第四百十四條　若シ買主代價ヲ拂ハサル時ハ
當然賣買ノ契約ヲ解除ス可キ契約アルニ於
テハ賣主其代價ヲ拂ハサル時裁判所ヨリ其
買主ニ猶豫ヲ許ス可カラス且賣主ヨリ催促
ノ代價ヲ拂フ可キ書ヲ受ケ猶之ヲ拂
ハサルニ於テハ其賣買ノ契約ヲ解除ス可シ
但シ其契約書ニ右催促書ヲ送ラスシテ其契約
ヲ解除ス可キコトヲ定メタル時ハ格別ナリト
ス

第四百十五條　前數條ノ場合ニ於テハ管係ナ
キ者ニ對シ不動產ノ賣買ノ契約ヲ解除セシ効
ヲ以テ其不動產ニ付キ書入質ノ權ヲ有スル
債主ノ權利ヲ害ス可カラス

第四百十六條　商品及ヒ動產ノ賣買ニ付キ代
價ヲ拂ヒ及ヒ物品ヲ引渡ス可キ期限ヲ契約
シタル時其期限ニ至リテ其代價ヲ拂ハサル
ニ於テハ別段催促ヲ送ルニ及ハス當然賣
買ノ契約ヲ解除ス可シ

第五款　賣主ニ損失アル原由ヲ以テ賣買ノ契約ヲ取消ス事

第四百十七條　不動産ノ賣買ニ付キ賣主ノ爲メ五分ノ一以上ノ損失アリト雖モ幼年ナル賣主ノ爲メニ非サレハ其代價ノ増加ヲ許ルサス

第四百十八條　賣主ノ爲メ損失ニ付キ訴訟ヲ爲スノ權ハ賣主ノ丁年ニ至リ又ハ其死去シタル時ヨリ二年間ニ之ヲ行フ可シ但シ之レカ爲メ不動産ノ賣買ヲ書入質ノ權アル債主ノ、權利ヲ害ス可カラス

第六款　買戻ノ約束アル賣買

第四百十九條　買戻ノ約束ハ賣買ノ契約ニ二種アリ

第一　賣主ノ負債ノ質物ト爲スタメ買戻ノ約束ヲ以テ賣リタル不動産又ハ動産ヲ買主ニ授ケ與フルタメ爲シタル賣買ノ契約

第二　若シ賣主其賣買ヲ爲シタルヲ追悔スル時ハ諸事ヲ賣買以前ノ模樣ニ復シ其物品ヲ取戻ス可キノ約束ヲ以テ爲シタル賣買ノ契約

第四百二十條　第一ノ場合ニ於テハ不動産又

ハ動産質入ノ規則ニ循フ可シ

第四百二十一條　第二ノ場合ニ於テハ左ノ規則ニ循フ可シ

若シ疑ハシキ事アル時現金ニテ代價ヲ拂ヒ又ハ代價ヲ以前ノ負債ト相殺シ又ハ代價ヲ利息ヲ以テ償ヒ又ハ名義ノ如何ナルヲ問ハス賣リタル物品ヲ賣主ノ方ニ保有シタル時ハ負債ノ質物ト為スタメ物品ヲ賣リタルモノト看做シ之ニ反シタル場合ニ於テハ真ノ賣買ナリト看做ス可シ〇此等ノ場合ニ於テハ契約書ノ文詞如何ナルヲ問ハス右ニ反シタル證ヲ立ルヿヲ得可シ

第四百二十二條　賣買シタル物品ハ其賣買ノ所為ニ因リ賣主ニ買戻ノ権アル約束ニテ買主ノ所有トナル可シ

故ニ賣主物品ヲ取戻スニ付キ定メタル約束ノ如ク執行ハサル時ハ買主其所有者トナル可シ

又之ニ反シ賣主其物品ヲ取戻スニ付キ定メタル約束ノ如ク執行フタル時ハ其物品初メ

ヨリ常ニ賣主ニ屬シタル者ト看做ス可シ但シ不動産ニ管スル他人ノ権利ニ付キ証書（トランスクリプ）登記ノ篇ニ記シタル規則ハ格別ナリトス

第四百二十三條　若シ賣買ノ契約書ニ買戻ノ権ヲ記セサル時ハ其買戻ノ契約ヲ為シタル日ヨリ以来其買戻ノ権ヲ復シタリト看做ス可シ

第四百二十四條　賣主ハ買戻ノ権ヲ行フニ付キ賣買ヨリ二年以上ノ期限ヲ契約ス可カラス若シ其契約シタル期限二年以上ナル時ハ之ヲ二年ニ減ス可シ

第四百二十五條　前條ノ期限ハ厳ニ之ヲ遵守ス可ク若シ其期限ヲ過コス時ハ買戻ノ権ヲ共フ可シ但シ如何ナル場合ニ於テモ裁判所ヨリ其権ヲ復セシム可カラス縦令抗拒ス可カラサル力ニ逢ヒ已ムヲ得サル場合ト虽モ同様ナリトス

第四百二十六條　契約シタル期限ヲ更ニ延ハシタル時ハ買主ヨリ賣主ニ約束ヲ定メ賣リ戻シタルト看做シ以前ノ賣買ノ日ヨリ期限

ヲ延ハシタル日ニ至ル迄買主ヲ其物品ノ真ノ所有者ト看做ス可シ

第四百二十七條　約ヲ為シタル賣戻ノ約束ヲ以テ賣買ノ契ニ左件ヲ償フ可キコトヲ提供スルニ非サレハ賣買ノ契約ヲ解除ス可カラス

第一　代價

第二　賣買ノ費用及ヒ賣戻ノ費用

第三　修理ノ費用ノ外買主ノ出シタル已ムヲ得サル費用及ヒ其他ノ費用ニ因リ物品ノ價ノ增シタル高但シ其增高ハ實ニ過ク可カラス

第四百二十八條　不動產又ハ數箇ニ區分シタル不動產ヲ賣買シタル時ハ其賣買シタル丈ノ物ニ付キ買戻ノ權ヲ行フ可キ更ニ多キ物或ハ少キ物ニ付キ其權ヲ行フ可カラス但シ買主ノ遺物相續人ニ對シ其各人ノ有スル共通ノ部分又ハ區分シタル部分ニ付キ買戻ノ權ヲ行フ時ハ格別ナリトス

第四百二十九條　賣主ニ買戻ノ權アル約束ヲ以テ共通ノ不動産ヲ買入レタル者其分派ノ訴ノ引續ニ因リ其不動産全部ノ所有權ヲ得タル時ハ賣主ヲシテ其全部ヲ買戻サシムルコトヲ要ス

第七款　權利ノ賣買

第四百三十條　權利ノ賣買ハ前ニ記シタル一般ノ規則ニ循フヘシ但シ左ニ記スル所ハ格別ナリトス

第四百三十一條　賣主タル甲者ト買主タル乙者トノ間ニ於テ互相ノ承諾ノミヲ以テ權利ヲ賣買シタルトキハ又其義務即チ權利ノ裏面ヨリ云フヲ行フヘキ丙者ニ對シテハ左ノ方法ニ因リ其權利ヲ賣買シタルモノト為スヘシ

第一　其義務ヲ行フヘキ丙者ニ其賣買ノ報告スル事

第二　其丙者ヨリ慥カナル証書ヲ以テ其賣買ヲ承諾シタル事但シ其日附ヨリ以來其承諾ノ効ヲ生スヘシ○又其丙者ノ承諾ノ

時其証書ノ日附慥カナラサル時ト虽モ丙者ニ對シテ其承諾ノ効アリトス但シ之レカ為メ商業証券類及ヒ手形類ヲ賣買スルニ付テノ商業規則ヲ害ス可カラス

第四百三十三條　商業上ノ事ニ付テハ手形ヲ以テ設ケ為シタルモノニ非サル権利ヲ賣買シ且規則ニ循ヒ設ケタル簿冊ニ因リ又ハ商業ノ事ニ付キ許シタル証ニ因リ其義務前ニ同シヲ行フ可キ者ニ其賣買ノ旨ヲ報告シタルヿ及ヒ其者ノ之ヲ承諾シタルヿヲ知リ得可キ時ハ其者ニ對シテ其賣買ノ効アリトス

第四百三十四條　既ニ得タル遺物相續ノ権ヲ賣買シタル時ハ其遺物中ノ権利并ニ遺物相續ノ初マリシ時以来受取リタル利息高及ヒ其時以来拂ヒタル費用負債等ヲ其賣買中ニ保含ス可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第四百三十五條　賣主ハ賣買ノ時其権利ノ現存シタルヿノミヲ保証ス可ク且其代價ト費用トニ充ル迄ノ高ヲ保証ス可シ

第四百三十六條

賣主ハ別段ノ契約アル時ニ非サレハ義務ヲ行フ可キ者ノ現在其義務ヲ行ヒ得可キヿ又ハ將来其義務ヲ行ヒ得可キヿヲ保証スルニ及ハス

右保証ノ限リハ第三百三十五條ニ記スル所ノ如クタル可シ但シ契約書ニ別段ノ約束ヲ記スル時ハ例外ナリトス

第四百三十七條

賣主若シ人ヲシテ義務ヲ行ハシム可キノ権利アリト称スル言分ノミヲ賣買シタル時ハ其契約書中ニ現ニ其権利アルヿヲ明カニ記載ス可ク若シ現ニ其権利ノアラサル時ト虽モ賣主ヲシテ其責ニ任セシム可カラス

第四百三十八條

前條ノ如ク為シ権利ヲ賣リタル時又ハ權利ノ本案ニ付キ訴訟ノ起リタル時ハ其義務ヲ行フ可キ者權利ヲ買入レタル者ニ其代價ト利息及ヒ費用トヲ償ヒ其権利即チ義務ヲ消散セシムルヿヲ得可シ

第四百三十九條

此遺物相續人ヨリ彼遺物相續人ニ権利ヲ賣リ又ハ権利ヲ共通スル一人

ヨリ他ノ共通者ニ其権利ヲ賣リタル時又ハ
義務ヲ行フ可キ者ヨリ之ヲ行ハレム可キ者
ニ其義務ヲ行フ代ヘ人ヨリ得可キ権利ヲ
譲リタル時又ハ争アル権利ノ買主自カラ訴
ヲ受クルヲ免レンカ為ヲ其権利ヲ買入レタル
時ハ前條ノ規則ヲ通シ用フ可カラス

司法省
民法課

埃及法
律書

民法草案

卷四

第二章　賃貸ノ契約

第四百四十條　賃貸ノ契約ニ二種アリ
一ハ物件賃貸ノ契約
一ハ人身賃貸或ハ勞力賃貸ノ契約

第一款　物件賃貸ノ契約

第四百四十一條　物件賃貸ノ契約トハ甲者乙者ヨリ定マリシ賃銀ヲ得テ定マリタル期限間已レノ物件ヲ乙者ニ貸シ乙者ヲシテ其利益ヲ得セシムル契約ヲ云フ

第四百四十二條　物件賃貸ノ契約ヲ書面ニ記セサル時ハ未タ現ニ其契約ノ如ク執行ト初メタル時ヨリ其契約ヲ結ヒタルト言掛ケラレシ者ノ自認又ハ誓詞ニ非サレハ之レカ證ヲ立ツ可カラス

若シ現ニ其契約ノ如ク執行ト初メタル時賃銀ノ受取書アラサルニ於テハ評價人ヲシテ其賃銀ノ高ヲ定メシム可ク又其契約ノ期限ハ地方ノ習慣ニ從テ定ム可シ

第四百四十三條　物件ノ所有者ノ承諾ヲ得スシテ其入額呼得者ノ人ト結ヒタル賃貸ノ契

約ハ其入額所得ノ權ト同時ニ終ル可シ但シ
借主ヲ退去セシムルニ必要ナル猶豫又ハ穀
物ヲ運ヒ去ルニ必要ナル猶豫ハ之ヲ許ルサ
ヽル可カラス
後見人又ハ管賊人ノ人ト結ヒタル賃貸ノ契
約ハ三年間ト為ス可シ但シ後見ノ事ヲ裁定
ス可キ相當ノ裁判所ヨリ更ニ長キ時間其契
約ヲ結フ可キヿヲ允許シタル時ハ格別ナリ
トス

第四百四十四條　借主數名ノ權互ニ抵觸スル
時ハ最初其物件ヲ已レニ受取リタル者ヲ其
當然ノ借主ト定ム可シ但シ不動産從來ノ借
主新ナル借主ノ現ニ其不動産ヲ受取ル以前
ニ再度ノ借受契約書ヲ不動産書入質役所ノ
簿冊ニ登記シ又ハ從來ノ借受契約未タ終リ
ニ至ラサル中ニ更ニ新ナル契約書ヲ右役所
ノ簿冊ニ登記シタル時ハ格別ナリトス

第四百四十五條　借主ハ其借受ケタル物件ノ
全部又ハ一部ヲ更ニ人ニ貸渡シ又ハ其借受
契約書ヲ人ニ讓リ渡スヿヲ得可シ但シ之ニ

又シタル契約アルトキハ格別ナリトス

第四百四十六條　若シ借主ヨリ其物件ヲ更ニ人ニ賃渡ス可カラサルノ禁アル時ハ其借受契約書モ亦人ニ譲リ渡ス可カラサルノ禁アリト看做シ又借主ハ其物件モ亦更ニ人ニ賃渡ス可カラサルノ禁ヲ犯シ之ヲ賃渡ス可シ

然レトモ商業又ハ工作ノ設置物ヲ其借主更ニ人ニ賃渡ス可カラサルノ禁ヲ犯シ之ヲ賃渡シタル時其時ノ模様ニ因リ其設置物ヲ賣拂ハサル可カラサル事アルニ於テハ裁判所ニ於テ其買主即チ借主ヨリ更ニ借受ケタル件ヲ買ハントスル者ヲ提拱セシメ保證ヲ見積リ賃主ノ為メ損害アラサルヲ知ル時ハ其賃渡ノ契約ヲ保タシムルヲ得可シ

第四百四十七條　如何ナル場合ニ於テモ借主ハ賃主ニ對シ已レヨリ更ニ又借ヲ為シタル者又ハ契約書ヲ譲リ受ケタル者ノ所為ヲ擔當ス可シ但シ賃主別段ノ約束ヲ為サス其又借人

ヨリ直カニ貸銀ヲ受取リ又ハ貸主借主ヨリ
人ニ又貸ヲ為シ或ハ其契約書ヲ譲リ渡スヿ
ヲ承諾シタル時ハ格別ナリトス

第四百四十八條　賃貸シタル物件ハ借主ニ渡
サント定メタル期日ニ其在ル儘ノ模様ニテ
之ヲ引渡ス可シ但シ其契約ヲ結ヒシ後貸主
又ハ其代権人ノ所為ニ因リ其物件ヲ毀損シ
タル時ハ格別ナリトス

第四百四十九條　貸主ハ別段ノ契約アル時ニ
非サレハ其賃貸セシ物ヲ補理スルニ及ハス

第四百五十條　若シ賃貸セシ物ノ滅盡シ又ハ
其毀損シテ之ヲ用フルヿ能ハサルニ至リシ
時ハ其賃貸ノ契約ヲ解除ス可シ

第四百五十一條　又賃貸シタル物縦令毀損ス
ト雖モ之ヲ其當然ノ用法ニ供スルヿ能ハサ
ルニ至テサル時ハ借主唯其毀損ニ准シ賃銀
ヲ減ス可キノ求ヲ為ス權アルノミトス但シ
之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第四百五十二條　家屋又ハ其一部ノ借主ハ貸
主其家屋ヲ保全スル為メ必要ナル切迫ノ修

理ヲ為スニ付キ其妨ヲ為ス可カラス然レトモ其修理ノ為メ其家屋ヲ用フルヿ能ハサル時ハ其時ノ模様ニ因リ或ハ賃借ノ契約ヲ解除シ或ハ其家屋ヲ用フルヿ能ハサル時間ノ賃銀ヲ減セント求ムルヿヲ得可シ

第四百五十三條　如何ナル場合ニ於テモ家屋ノ修理終リタル時猶其家屋ニ在ル借主ハ賃借ノ契約ヲ取消サント求ム可カラス

第四百五十四條　賃主ハ借主ノ其物件ヲ用フルニ付キ妨ヲ為ス可カラス又ハ其不動産或ハ其附従物ヲ変更シテ借主ノ之ヲ用フル資益ヲ減ス可カラス

第四百五十五條　若シ甲者ヨリ乙者ニ賃貸シタル物件ニ付キ丙者之ヲ已レノ有ト為ス可キノ權アリト述ヘ乙者ノ之ヲ用フル妨害ヲ為シタル時又ハ乙者ノ其物件ヲ借受ケシ眼目タル資益ノ一ヲ失ハシメシ時ハ乙者其時ノ模様ニ因リ或ハ其賃借ノ契約ヲ取消シ或ハ賃銀ヲ減セント求ムルヿヲ得可シ

第四百五十六條　若シ前條ノ乙者丙者ヨリ最

初ケヲ受ケタル時之ヲ甲者ニ告知セサル
ニ於テハ前條ニ記シタル權ヲ失ノ可シ

第四百五十七條　借主ハ其借タル物件ヲ其當然ノ用法ニ從ヒレノ物品ヲ用フル如ク懇切ニ注意シテ用フ可シ又借主ハ貸主ノ承諾ヲ得スシテ其物件ヲ變更ス可カラス

第四百五十八條　然レトモ借主其借タル物件ヲ變更セシ時ハ之ヲ其以前ノ模樣ニ復スルニ及ハス但シ其變更ノ爲メ貸主ニ損害ヲ生セシ時ハ格別ナリトス

第四百五十九條　借主ハ其借リシ物件ヲ契約書ニ定メタル所ヨリ更ニ他ノ用法ニ用フ可カラス

第四百六十條　借主ハ契約ノ終リニ至リ其借タル物ヲ現在ノ模樣ノ儘ニ還ス可シ但シ已レノ所爲又ハ僕婢ノ所爲又ハ其借タル不動産内ニ住スル者ノ所爲ニ因リ其物件ヲ毀損シタル時ハ之ヲ償フ可シ尤モ賃貸ノ契約書ニ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第四百六十一條　借主ハ契約書ニ定メタル期

限ニ其賃銀ヲ拂フ可シ

第四百六十二條　別段ノ契約アラサル時ハ物件ヲ使用スル各期限ノ終リ毎ニ其賃銀ヲ拂フ可シ

第四百六十三條　家屋、倉庫、舗店、田野ノ小屋ヲ賃借シタル者ハ二年間ノ賃銀ヲ保証スルニ足ル可キ價ノ家具、商品、穀物、器具等ヲ其借タル不動産内ニ備ヘ置キ又其賃借ノ期限二年以下ナル時ハ其期限ノ終リニ至ル迄ノ賃銀ヲ保証スルニ足ル可キ價ノ家具、商品、穀物、器具等ヲ備ヘ置ク可シ但シ賃銀ヲ前拂ニ為シタル時ハ此例ニ非ス又其時ノ模様ニ因リ前ニ記シタル呼ニ反セシ契約アルヿヲ思料スル時モ亦同シ

第四百六十四條　賃貸ノ契約ハ其定メタル期限ニ至テ終ル可シ

第四百六十五條　若別段期限ヲ定メサル時ハ賃銀ヲ各年拂ヒ又ハ半年毎ニ拂ヒ又ハ一月毎ニ拂フニ從ヒ一年間又ハ半年間又ハ一月間其契約ヲ為シタルト看做ス可シ但シ此

場合ニ於テハ賃主又ハ借主ノ意ニテ五ニ左ノ如ク告知ヲ為スニ因リ其契約右ノ期限ニ於テ終ル可シ

家屋鋪店、倉庫ニ付テハ其賃貸ノ期限三月以上ナル時ハ三月前ニ五ニ告知ヲ為ス可ク又其期限三月又ハ三月以下ナル時ハ其期限ノ半ハ前ニ告知ヲ為ス可シ

房室ニ付テハ一月前ニ其告知ヲ為ス可シ

土地ニ付テハ小クモ六月前ニ其告知ヲ為ス可シ但シ此場合ニ於テハ未熟ノ穀物ヲ収納シタル後又ハ退去ノ時種ヲ蒔キタル穀物ヲ収納シタル後ニ非サレハ其賃貸ノ契約ヲ終ヲ可カラサルノ定メアルニナシ

第四百六十六條　一年又ハ数年間土地ヲ賃貸スル契約アル時ハ穀物ヲ一回収納シ又ハ数回収納スルニ至ル迄其契約ノ期限ヲ更ホス可シ

第四百六十七條　賃貸契約ノ期限ヲ其契約書ニ定メタル時ハ別段借主ニ退去ノ告知ヲ為スニ及ハス

第四百六十八條　又契約期限ノ終リニ至リ借主賃主ノ承諾ヲ得テ引續キ借受クル時ハ以前ト全シ約束ヲ以テ習慣ノ期限間更ニ改メテ賃借ノ契約ヲ為シタルト看做ス可シ

第四百六十九條　退去スル借主ハ新ナル借主ノ土地ヲ耕シ種ヲ蒔クノ承諾ヲ為サヽル可カラス但シ之レカ為メ已レニ損害ヲ受クル時ハ格別ナソトス

第四百七十條　賃貸ノ契約ハ双方其定メタル義務ヲ行ハサルニ因リ之ヲ解除ス可シ但シ賃主ハ更ニ其物件ヲ貸渡スニ必要ナル時間ノ賃銀トヲ以前ノ契約期限中ニテ猶残リタル時間ノ賃銀ノ減損高トニ當ル損失ノ償高ヲ得可シ

第四百七十一條　賃貸契約ノ日附ノ前ナラサル時ハ賣買契約ノ日附賣買契約ノ成ノ契約ヲ取消ス可シ

第四百七十二條　然レトモ買主ハ前ニ記ヒシ期限内ニ退去ノ告知ヲ為シタル後ニ非サレハ

強テ借主ヲ退去セシム可カラス

第四百十三條　右ノ場合ニ於テ契約ニ反キ退去ノ告知ヲ得タル借主ハ賃主ヨリ其損失ノ償ヲ得ント求ムルヿヲ得可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第四百十四條　右借主ハ賃主又ハ賃主ニ代レル貫主ヨリ其償ヲ得タル後又ハ此等ノ者ヨリ相當ノ保証ヲ立テタル後ニ非サレハ強テ退去セシメラルヿナカル可シ

第四百十五條　賃貸ノ契約ハ賃主又ハ借主ノ死去ニ因リ之ヲ解除ス可カラス但シ賃主ノ一身ノ労力又ハ其一身ノ工技ノミヲ眼目トシ賃渡シタル時ハ格別ナリトス

第四百十六條　土地ヲ賃借シタル時借主若シ偶然ノ事ニ因リ其収納物ヲ失フタルト雖モ其賃銀ヲ減セント求ム可カラス

第四百十七條　若シ賃主（原書ニ賃主トアルハ恐クハ借主ノ誤ナル可シト雖モ今姑ク其儘記ス）偶然ノ事ニ因リ地ヲ耕シ或ノ死去ニ因リ之ヲ解除ス可カラス但シ賃主土地ノ収納物ノ一部ヲ已レニ取テ得可キノ約束ヲ以テ土地ヲ賃渡セシ時ノ如ク總テ借主ノ一身ノ労力又ハ其一身ノ工技ノミヲ眼目トシ賃渡シタル時ハ格別ナリトス

第四百十六條　土地ヲ賃借シタル時借主若シ偶然ノ事ニ因リ其収納物ヲ失フタルト雖モ其賃銀ヲ減セント求ム可カラス

第四百十七條　若シ賃主（原書ニ賃主トアルハ恐クハ借主ノ誤ナル可シト雖モ今姑ク其儘記ス）偶然ノ事ニ因リ地ヲ耕シ或

ハ種ヲ蒔クノ妨害ヲ受ケ又ハ其蒔キタル種
ノ全部或ハ多分ヲ失ノタル時ハ其賃銀ヲ拂
フニ及ハス又之ヲ拂フト雖モ其高ヲ減ス可
シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリ
トス

第四百七十八條　土地ノ借主其土地ニ樹木タ
植タル時ハ培樹場中ニアル小樹ヲ除クノ外
自ラ其樹木ヲ持去ル可カラス但シ貸主ハ
已レノ為ニ植ヘタル樹木ヲ借主ノ費用
ニテ持去ラシメ或ハ其見積ノ代價ヲ拂フテ
之ヲ己レノ有トナスノ自由ナリトス

第四百七十九條　若シ借主ヨシテ貸主ヨシテ其樹木
ヲ持去ラシムル時ハ其植易ヲ為シ得可キ季
節ヲ待ツ可シ

第四百八十條　耕耘ス可キ土地又ハ樹木ヲ植
ヘタル土地ハ賦主其収納物ノ一部ヲ已レニ
納メシムル約束ヲ以テ之ヲ賦渡スノヲ得可
シ

第四百八十一條　石ノ賦渡ハ数年ノ期限間之
ヲ契約スルノヲ得可シ但シ妨場合ニ於テハ

最終ノ年ノ収納ノ後
其契約終ル可シ但シ此場合ニ於テハ如何ナ
ル契約アリト雖モ亦同一ナリトス

第四百八十二條　若シ期限ヲ定メス石貸渡ノ
契約ヲ為シタル時ハ一年ノ収納ヲ得ル間之
ヲ契約シタルト看做ス可シ

第四百八十三條　石貸渡ノ契約ニ別段ノ箇
條ヲ記セサル時ハ其契約ヲ結ヒタル時其土
地ニ在ル賃主所有ノ器具及ヒ獣類ヲ其賃渡
契約中ニ係含スルモノト看做ス可シ

第四百八十四條　若シ借受ケタル土地内ニ小
屋及ヒ造築アル時ハ借主已レノ費用ニテ之
ヲ修理ス可ク又借主ハ樹木ヲ植附ク可シ但シ借主ハ別段ノ契約アラサ
ル時ハ旧棄シタル跡其ニ代ヘ新タル器具ヲ
備フ可シト雖モ自己ノ過失ニ非ラスシテ死
シタル獣類ハ増殖シタル獣類ヲ以テ之ヲ償
フ可キノミトス

第四百八十五條　賃主ニ収納物ノ一部ノ引ツ
可キ契約ヲ以テ土地ヲ借受ケタル時ハ借主

ノ死去又ハ借主ノ拂ヲ転ヲ妨ケラレシ事故ニ
因リ其契約ヲ終ヲ可ク又賃主ハ借主ニ未タ
苅取ラサル収納物ヲ作ル為メ出シタル費用
ヲ償フ可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ
格別ナリトス

第二款　人身ノ賃貸及ヒ労力ノ賃貸

第四百八十六條　人身ノ賃貸ハ特ニ定メタル
用向ノ為メ契約書ニ記スル期限間之ヲ為シ
又ハ別段定メタル工業ノ為メ之ヲ為ス可シ

第四百八十七條　總テ使用ヲ受クル者、工丁、僕
婢ノ雇入契約ハ期限アル時間ニ非サレハ之
ヲ為ス可カラス

第四百八十八條　契約書ニ雇入契約ノ期限ヲ
定メタル時雇主若シ其契約ヲ取消スニ於テ
ハ其雇人ノ更ニ他ニ雇ハル、ヲ得可キニ至
ル迄ノ時間ノ雇賃ヲ償フ可ク又遠
地ヨリ其雇人ヲ呼寄セタル時ハ其旅費モ亦
之ヲ償フ可シ

第四百八十九條　各シ雇入ノ期限ヲ定メサル
時ハ雇主又ハ雇人ノ双方ニテ何時ニ於テモ其

契約ヲ取消スコトヲ得可シ但シ之レカ為メニ
ハ其契約ヲ取消スコノ時宜ニ適シタルヲ必
要トス

第四百九十條　拂ヒ期限ニ至リシ雇賃ノ高又
ハ既ニ拂ヒ濟ミニナリシ雇賃ノ高ヲ定ムル
ニ付テハ習慣ニテ許ルシタル証ヲ立ツルコ
ヲ得可シ

第四百九十一條　特ニ定メタル工業ノ為メ労
カヲ貸賦スル契約ハ總テノ工業ニ付キ請負
ニテ之ヲ為シ又ハ使用ヲ受ケル時間或ハ成就
シタル工業ニ准シ定メタル價ニ從ヒ之ヲ為
スコヲ得可シ

第四百九十二條　如何ナル場合ニ於テモ雇主
ハ工業ノ起作人ニ其用意ヲ為スニ付キ本シ
クル費用ヲ償フテ其工業ヲ止メシムルコヲ
得可シ

第四百九十三條　然レトモ雇主特ニ定メタル期
限間工丁或ハ起作人ヲ雇ヒ又ハ請負ノ約束
ヲ以テ之ヲ雇ヒタル時雇主若シ其雇入ノ契
約ヲ取消スニ於テハ其契約ノ執行ヨリ工丁

起作人等ノ得可キ諸般ノ利益ヲ償フ可シ

第四百九十四條　建築者ハ圖面及ヒ見積書ヲ作ルニ付テノ雇賃ト工業ヲ監督スルニ付テノ雇賃トヲ得可シ

第四百九十五條　若シ契約ノアラサル時ハ習慣ニ從テ右ノ雇賃ヲ定ム可シ

第四百九十六條　若シ註文シタル圖面ノ如ク執行ハサル時ハ使用シタル時間ト工業ノ種類トニ准シテ右ノ雇賃ヲ定ム可シ

第四百九十七條　若シ造築シタル建造物ノ十年内ニ破壞スル時ハ縱令其土地ノ不良ナルニ因リ且ツ雇主ノ其不良ナル造築ヲ承諾シタル時ト雖モ其起作人及ヒ建築者ハ互ニ連帶シテ其責ニ任ス可シ但シ雇主其不良ナル造築ヲ承諾セシ時雙方ノ意ニテ其建造物ノ存續スル時間十年以下ナル可シト定メタルヲ知リ得可キ場合ハ格別ナリトス

第四百九十八條　工業ヲ監督ス可キ任ヲ受ケサル建築者ハ其作リシ圖面ノ不良ナル責ノミニ任ス可シ

第四百九十九條　労力賃貸ノ契約ハ雇人ノ死
亡又ハ其労動ヲ妨クル偶然ノ事ニ因リ之ヲ
解除スル可シ

第五百條　前條ノ場合ニ於テハ雇主已レノ為
メ有益ナル可キ賦料ヲ其原價ニテ買入レサ
ルヲ得ス

第五百一條　總テ起作ハ其工業ヲ成就シタル
後ニ非サレハ之ヲ規定ス可カラス故ニ工業
ヲ為ス間ニ規定シタル摸様書ハ假リノ者ト
シ其間ニ拂ヒタル金高ハ内金ト看做ス可シ
但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリト
ス

第五百二條　起作人ハ契約書ニ其工業ヲ更ニ
他人ニ任カス可カラサル旨ヲ定メタルニ非
サレハ其工業ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ任カ
スルヿヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ起作人
其工業ヲ任カセタル者ノ所為ヲ己レニ擔當
ス可シ

第五百三條　起作人ヨリ工業ヲ任カセラレタ
ル者ハ雇主ノ起作人ニ金高ノ渡ス可キヿヲ

已レヨリ差留メタルトキ又ハ其後雇主ノ起作
人ニ渡ス可キ高ノ三
許ヲ為スノ権アリ
第五百四條　起作人ハ工業ヲ任カセラレタ
ル数人ハ各〻其得可キ賃銀ノ割合ヲ以テ前條
ニ記シタル金高ニ付キ先取リノ特権ヲ有シ
雇主ハ裁判所ノ言渡書ナクシテ右数人ニ直
カニ其金高ヲ渡スヲ得可シ
第五百五條　労力賃貸ノ契約ヲ為シタル時ハ
其附帯ノ約束トシテ賄料ノ全部又ハ一部ヲ
備辨ス可キヿヲ定メタルヲ得可シ
第五百六條　工丁ヨリ財料ヲ備辨シタル時ハ
其工丁賄料ノ損失ヲ
雇主工丁ヨリ其賄料
受ケ之ヲ受取リ又ハ
ヲ承諾シ又ハ其催促ヲ受ケテ猶之ヲ受取ラ
サル時其賄料ノ減盡
トス
又請負ノ契約ヲ為シ雇主ノ賄料ヲ備辨セシ
場合ニ於テ若シ偶然ノ事ニ因リ其財料ノ減

盡シタル時ハ雇主ハ其賄料ヲ以テ損失ト為
シ工丁ハ其雇賃ヲ以テ損失ト為ス可シ

第五百七條　請負ニ工業ヲ起作スル者ハ辞
柄ヲ唱ヘテ代價ヲ増サント求ム可カラス但
シ雇主ノ過失ニ因リ費用ノ増シタル時ハ格
別ナリトス

第三章　會社ノ契約

第一款　會社ノ契約

第五百八條　會社ノ契約トハ二人以上ニテ共
通ノ業ヲ行フ為メニ金高又ハ物件ヲ出シ
合ヒ其業ヨリ得可キ利益ヲ互ニ分タントス
ル契約ヲ云フ

第五百九條　社員ヨリ會社ニ供スル物ハ或ハ
金高或ハ動産或ハ不動産或ハ此等ノ物ノ入
額呼得ノ推タルヲ得可シ

又其社員ハ其勞力ヲ會社ニ供スルヲ
得可シ

第五百十條　別段ノ契約アラサル時ハ物件ヲ

有ノ權ニ至ル迄之ヲ會社ニ供シタルモノト看做ス可ク其入額ヲ呼得ノ權ノミヲ供シタルモノト看做ス可カラス

第五百十一條　會社ニ供スル物ハ其種類ヲ定ムル可ク若シ社員ノ現ニ所有スル諸般ノ財産ヲ供スル時ハ其財産ノ目録ヲ記ス可シ

第五百十二條　社員ハ契約シタル期日ニ至リ其物件ノ會社ニ供ス可シ

第五百十三條　社員ヨリ會社ニ供シタル物件ヲ呼得ノ權ハ會社ノ契約ニ因リ之ヲ會社ニ供シタルモノト為シ會社ニテ之ヲ擔當ス可シ

第五百十四條　社員ハ其會社ニ供セシ物件ニ付キ之ヲ責リタル時ト同ク保證ヲ為スノ義務アリ、

第五百十五條　社員ハ其會社ニ供ス可キ物件ノ引渡ヲ延延シタルニ因リ會社ニ對シ損失ノ償ヲ為ス可キ義務アリ

第五百十六條　右延ニ因リ會社ノ為メ損失

ヲ生セシ時ハ其社員ヨリ其損失ヲ償フ可ク
縱令其者會社ノ為メ別ニ利益ヲ生セシメシ
ヿアソト雖モ其利益ト損失トヲ相殺ス可カ
ラス

第五百十七條　社員ハ其會社ニ對シ負フタル
所ノ債ノ利息ヲ當然拂フ可ク又會社ニ供セ
シ金高ノ利息ト正實ノ意ヲ以テ疎失ナク會
社ノ為メ出シタル費用高ノ償還トヲ得可シ

第五百十八條　社員ハ會社ノ權利ニ注意スル
ヿ自己ノ權利ニ注意スルカ如クナル可シ

第五百十九條　會社ヨリ社員ニ對スル義務ハ
各社員ニ之ヲ分配ス可ク若シ社員中ノ一名
其義務ヲ行フ能ハサル時ハ其者ノ擔當ス可
キ部分ヲ他ノ社員ニ割附ク可シ

第五百二十條　各社員ニ利益ヲ分配スル割合
ハ契約書ニ之ヲ定ム可シ

第五百二十一條　若シ契約書ニ右ノ割合ヲ定
メサル時ハ各社員ノ會社ニ供セシ高ニ准シ
テ其割合ヲ定ム可シ

第五百二十二條　勞力ノミヲ會社ニ供セシ社

負ニ利益ヲ分配スル割合ハ最少ノ高ヲ會社ニ供セシ社員ノ割合ト同一タル可シ

第五百二十三條　若シ社員其労力ト物件トヲ會社ニ供シタル時ハ其物件ニ付テハ最少ノ高ヲ會社ニ供セシ社員ニ同シキ利益ノ割合ヲ得可シ

第五百二十四條　若シ期限ニ至ラサル中ニ會社ヲ解キタル時ハ労力ノミヲ會社ニ供セシ社員其會社ノ継續シタル時間ノミノ割合ヲ以テ會社資本ノ分配ヲ得可シ

第五百二十五條　別段ノ契約アラサル時ハ社員ノ損失ヲ擔當スル割合ト同一ニ為ス可シ

第五百二十六條　社員中ノ一人又ハ數人會社ノ利益ニ加ハラス又其損失ヲ擔當セサル契約ハ之ヲ為ス可カラス

第五百二十七條　然レモ労力ノミヲ會社ニ供スル社員ハ會社ノ損失ヲ擔當セサル契約ヲ為スコヲ得可シ但シ其社員ノ労力ニ准シ給料ヲ與フル時ハ此例ニ非ス

第五百二十八條　社員ハ會社ノ支配人一名又ハ數名ヲ任スルコトヲ得可シ

第五百二十九條　社員ニ非サル支配人ハ何時ニテモ其職ヲ退カシムルコトヲ得可シ

第五百三十條　社員ニテ支配人トナリシ者ハ會社ヲ契約書ヲ以テ之ヲ任シタル時ニ非サレハ其職ヲ退カシムルコトヲ得可シ

第五百三十一條　又會社ノ契約書ヲ以テ任シタル支配人ト雖モ其職ヲ退カシムルコトヲ得可シ

ノ道理アルニ至重ノ道理アル時ハ其職ヲ退カシムルコトヲ得

可シ

第五百三十二條　若シ別段支配人ヲ指定メサル時ハ各社員ヲ支配人タル任ヲ受ケシモノト看做シ一人ニテ支配ノ事務ヲ行フコトヲ得可シ但シ此事ニ付キ爭ノ生スル時ハ社員中多數ノ裁決ニ任カス可シ

第五百三十三條　總令支配人一致ニテ決定ヲ為シ又ハ社員中ノ多數決定ノ為シタル時ト雖モ會社ノ旨趣ト為ス所ニ非サル所為ハ之ヲ行フ可カラス又契約書ニ定メシヨリ更ニ

行ヲ可カラス又契約書ニ定メシヨリ更ニ多
數ノ金高ヲ會社ニ供セシム可カラス但シ共
通ノ負債ヲ償ヒ又ハ會社ノ財産ヲ保全スル
為メ其費用ヲ拂フ可キ時ハ格別ナリトス共
通ノ負債ヲ償ヒ又ハ會社ノ財産ヲ保全スル
為メ其費用ヲ拂フ可キ時ト雖モ差金會社ノ
社員又ハ無名會社ノ株主ニ付テハ之ヲシテ
契約書ニ定メシヨリ更ニ多數ノ金高ヲ會社
ニ供セシム可カラス

第五百三十四條　支配人ニ非サル社員ハ支配
人ヲシテ其支配ノ模様ヲ申立シムルヿヲ得
可シ

第五百三十五條　別段ノ契約アラサル時ハ社
員其會社ニ於ケル權利ノ全部又ハ一部ヲ他
人ニ譲ル可カラス唯其會社外ノ者ニ已レノ
得タル利益ヲ、分配スルヿヲ得可キノミトス

第五百三十六條　高業會社ヲ除クノ外總テノ
會社ニ於テハ已レノ名ヲ以テ他人ト契約シ
タル社員已レ一身ニ其契約ノ義務ヲ負フ可
シ但シ共分會社ニ於テハ縱令高業ノ為メ會

社ヲ結ヒタル時ト雖モ亦同一ナリトス

第五百三十七條　又社員ノ名又ハ會社ノ名ニテ他人ト契約ヲ為スノ委任状アル時ハ各社員他人ニ對シテ平等ナル義務ノ部分ヲ擔當スルニ又ハスルヿ可ク連帶シテ其義務ヲ擔當スルヿ可キヿアリ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第五百三十八條　如何ナル場合ニ於テモ社員ニ非サル者ハ各社員ニ對シ會社ノ所為ヨリ生シタル利益中其各員ノ部分ニ付キ訴ノ為ス可キノ權アリ

第五百三十九條　會社ノ契約シタル期限ノ終ル事ニテ終ル可シ

第一　會社ヲ契約シタル事業ヲ經續スル能ハサル事

第二　會社ヲ結ヒタル眼目タル事業ノ成就スル事

第三　其通ノ資本ヲ全ク失ヒ又ハ其中ノ多分ヲ失ヒ事業ヲ經續スル能ハサル事

第四　約束通リノ資本金ヲ供セサル事

第五　別段ノ契約アラサル時社員中一名

ノ死去シ又ハ行權ノ禁ヲ受ケ又ハ家資
分散ヲ為シタル事但シ連帶セサル社員
ノ死去、行權ノ禁、家資分散ニ因リ解散ス
可カラサル商業會社ニ付キ定メタル規
則ハ格別ナリトス

第六　諸社員ノ存意

第七　會社ノ期限ヲ契約セサル時其社員
中一名ノ退去スル事但シ其退去正實ノ
意ニ出テ且ツ時宜ニ適シタルヿヲ必要
トス

第五百四十條　會社ハ社員ノ其義務ヲ執行ハ
サルニ因リ又ハ會社ノ事業ノ進行ヲ妨クル
重大ノ議論ニ因リ又ハ其他至重ナル原由ニ
因リ社員中一人ノ求メニ從ヒ裁判所ヨリ之
ヲ解散ス可キヿヲ言渡スヲ得可シ

第五百四十一條　前數條ニ記スル規則ハ諸般
ノ會社ニ通シ用フルヿヲ得可シ但シ商業ノ
事ニ付キ商法ニ記スル所ハ格別ナリトス

第二款　會社ノ分派及ヒ其他ノ分派ヽ

第五百四十二條　會社ノ財産ハ契約書ニ記シ

タル方法ニ從ヒ之ヲ各社員ニ分派ス可シ

第五百四十三條　若シ契約書ニ財産分派ノ方法ヲ記セサル時ハ民法上ノ會社ニ於テハ各社員ノ世話ヲ以テ其分派ヲ為シ又尚添上ノ會社ニ於テハ社員多數ノ選任シタル筭計者一名又ハ數名ノ世話ヲ以テ其分派ヲ為シ若シ社員ノ多數其筭計者ヲ選任スルニ付キ協議セサル時ハ裁判所ヨリ任シタル筭計者一名又ハ數名ノ世話ヲ以テ其分派ヲ為ス可シ

第五百四十四條　右筭計者ハ糶賣又ハ通常ノ賣買ニテ會社ノ賊産ヲ賣拂フノ權アリ但シ其選任ヲ得ル証書ニ其者ノ權限ヲ記スル時ハ格別ナリトス

第五百四十五條　會社ノ分派ノ外共通ノ財産ヲ分派ス可キ場合ニ於テ其賊産ヲ共通スル數名皆自己ノ賊産ヲ自由ニ為スヲ得可キ權アル時ハ互ニ協議シテ其好ム所ノ方法ニ循ヒ分派ヲ為スヿヲ得可シ

第五百四十六條　若シ右數名ノ者互ニ協議セサル時又ハ其中ニ自己ノ賊産ヲ自由ニ為ス

ヲ得可カラサル者アル時ハ其賊産ヲ分派セント欲スル者他ノ共通者ヲ社中所在ノ地ノ裁判所又ハ財産所在ノ地ノ裁判所ニ呼出シ若シ又動産ニ管スル時ハ被告人中一人ノ住所ニ裁判所ニ之ヲ呼出シ其分派ヲ監督ス可キ掛リ裁判役一名ト評價ヲ為シ且賊産ノ區分ヲ為ス可キ評價人一名又ハ数名トヲ任ス可キヿヲ裁判所ニ求ム可シ

第五百四十七條　評價ハ訴訟法ニ定メタル法式ニ循ヒ之ヲ為ス可シ

第五百四十八條　若シ財産ヲ品物ノ儘分派シ得可キ時ハ裁判所ニ於テ掛リ裁判役ノ申立ヲ聽キタル上賊産ノ區分ニ管シタル爭ヲ裁決ス可シ

第五百四十九條　若シ其訴訟ニ管シタル者ノ中ニ幼者又ハ行權ノ禁ヲ受ケシ者アル時ハ必ス裁判所ヨリ其財産區分ヲ允許スル言渡ヲ受ケサル可カラス

第五百五十條　區分シタル財産ヲ闔列ニ為シ分配スルヿハ掛リ裁判役ノ面前ニテ之ヲ為

シ抵リ裁判役其旨ヲ調書ニ記ス可シ

第五百五十一條　若シ賊産ヲ品物ノ儘分派スルヲ得サル時ハ訴訟法ニ記シタル法式ヲ以テ之ヲ賣払フ可シ

第五百五十二條　賊産ヲ品物ヲ儘分派シタル時ハ其各共通者ヨリ其區分セシ財産ヲ得タル者ニ對シ互ニ其賊産ヲ賣買シタルト看做シ之ヲ賣買シタル時ト同一ノ効ヲ生ス可シ

第五百五十三條　共通ノ財産ニ付キ權利ヲ得タル債主ハ其賊産分派ノ前ニ總テノ共通賊産ニ付キ其權利ヲ行フ可キノ訴ヲ為スコトヲ得可シ

第五百五十四條　右債主ハ其債ヲ得ルニ至ル迄ハ共通ノ賊産ヲ品物ノ儘分派スルヲ抗拒スルコトヲ得可シ

第五百五十五條　右債主ノ其分派ヲ拒ミタル時又ハ共通者中甲者ノ債主他ノ共通者ニ其賊産ヲ引渡スヲ可カラサル旨ヲ告知セシ時ハ賊産渡方ノ差留ニ等シキ効アリトス

第五百五十六條　前條ニ記シタル各債主ヲシテ諸般ノ手續ニ立會ハシムルニ非サレハ共通ノ財産ヲ賣拂フ可カラス

第五百五十七條　共通ノ財産ニ付キ權利ヲ有スル債主ハ其財産ヲ分派スル時共通者一身ニ付テノ債主ニ先チ其償ヲ得ルノ權アリ

第五百五十八條　若シ共通者中ノ甲者ヨリ其共通セシ財産ノ部分ヲ他人ニ賣リタル時ハ共通者中ノ乙者其分派ヲ為スニ至ル迄ノ間ニ其買主ニ代償ト貸賃及ヒ其他已ムヲ得サル費用トヲ償ヒ其賣リタル部分ヲ買戻スヿヲ得可シ

第五百五十九條　各共通者ハ其共通スル財産ノ部分ノ割合ヲ以テ先キ買ヲ為スノ權アリ若シ又共通者中數名ノ其先キ買ノ權ヲ行ハサル時ハ其中ノ一名其財産ノ全部ニ付キ先キ買ノ權ヲ行フヿヲ得可シ

第五百六十條　共通者中ノ一名ハ共ニ財産ヲ所有スル者（財産ヲ共ニ所有スルト雖モ共同ノ社中ニ加ハラサル者ニ對スル時ト雖モ先キ買ノ權ヲ行フヿヲ得可シ

但シ其所有者ハ已レノ部分ニ付テハ引留メノ權ヲ行フヿヲ得可シ

第四章　貸借ノ契約（前ニ記スル質貸ノ契約ト混ス可カラス）

第五百六十一條　貸借ノ契約ニ二種アリ

一ハ耗盡セサル物ノ貸借（プレータユザーシユ）

一ハ耗盡ス可キ物ノ貸借（プレードユスソムマシラン）

第五百六十二條　耗盡セサル物ノ貸借トハ貸主ヨリ借主ニ物品ヲ渡シ之ヲ用ヒシメ借主約束期限ニ至リ其物品ヲ還ス可キ契約ヲ云フ

第五百六十三條　耗盡ス可キ物ノ貸借トハ貸主ヨリ借主ニ物品所有ノ權ヲ移シ借主約束期限ニ至リ其物品ニ代ヘテ之レト同種同量ノ物ヲ還ス可キ契約ヲ云フ

第五百六十四條　契約書ニ貸借ノ種類ヲ記セサル時ハ貸主及ヒ借主ノ模様ト物品ノ品質トニ從テ其種類ヲ定ム可シ

第一款　耗盡セサル物ノ貸借

第五百六十五條　耗盡セサル物ノ賦借ハ其本性ヨリ賃銀ヲ要セサルモノトス

第五百六十六條　借主ハ已レノ過失ニ因リ其借入レタル物品ヲ滅盡セシメ又ハ之ヲ毀損シタルノ責ニ任スヘシ但シ其過失如何ニ細小ナル時ト雖モ亦同一ナリトス

第五百六十七條　借主ハ其借入レタル物品ヲ保全スルニ付キ意ヲ用フルコト一丁寧懇切タルヘシ

第五百六十八條　借主ハ其借入レタル物品ヲ約束シタル用法ニ用ノ可カラス

第五百六十九條　若シ借主其借入レタル物品ヲ約束セシ以外ノ用法ニ用テ又ハ約束シタル期限ニ至リシ後猶之ヲ用フル時ハ借主其借賃ニ當ル可キ償ヲ出ス可シ但シ其借入レシ物品ヲ用フルノ適度ニ過クルニ因リ其物品ヲ毀損シタルトキハ亦其損害ノ償ヲ為ス可シ

第五百七十條　若シ借主其借入レシ物品ニ修理ヲ加フ可キ時其賃主ニ報告スルノ暇

アラサル時ハ賃主ニ對シ其費用ノ償ヲ得ン
ト要ムルヲ得可シ然レモ借主ハ其借入レ
シ物品ノ小補理ノ費用ヲ已レニ擔當セサル
ヲ得ス

第五百七十一條　借主ハ約束シタル期限ニ至
リ其借入レシ物品ヲ返ス可ク又其期限ニ至
ラサル前ニ之ヲ返ス可キ期限ヲ定メサ
第五百七十二條　別段返ス可キ期限ヲ定メサ
ル時ハ其物品ヲ借入レタル眼目ノ用法ニ用
ヒタル後ニ之ヲ返ス可シ

第二款　耗盡ス可キ物ノ賃借

第五百七十三條　耗盡ス可キ物ノ賃借ニ於テ
ハ借主其物品所有ノ權ヲ得タル時ヨリ其物
品ヲ己レニ擔當ス可シ

第五百七十四條　貸主ハ約束シタル時ハ其賃
借ノ後其相場ノ如何ニ變易セシニ管セス其
借タル通リノ高ヲ返ス可シ

第五百七十五條　借主ハ約束シタル期限ニ至
リ其物品ヲ返ス可シ

第五百七十六條　若シ右ノ期限ヲ定メス又ハ
借主ノ都合次第返ス可キノ契約ヲ為シタル
時ハ裁判役其借入品ヲ還ス可キ期日ノ定ム
可シ

第五百七十七條　借主ハ嘗テ物品ヲ借入レタ
ル場所ニ於テ之ヲ還ス可シ但シ之ニ反シタ
ル契約アル時ハ格別ナリトス

第五百七十八條　耗盡ス可キ物ノ賃借ハ賃銀
ヲ要セサルモノトス但シ之ニ反シタル契約
アル時ハ格別ナリトス

第五百七十九條　契約シタル利息ハ百分ノ十
ニニ過ク可カラス

第五百八十條　利息ヲ得テ賃借ヲ為ス契約ヲ
結テタル時ハ賃主ハ次シテ其元金ヲ取還サ
ント求ム可カラス又借主ハ何時ニテモ之ヲ
還スヲ得可キ約束ヲ加フルヲ得可シ

第五百八十一條　前ノ場合ニ於テハ其賃借借
ノ契約ヲ名ケ年金ヲ以テ定ムル契約ト云ヒ
其利息ヲ名ケテ年金利息ト云フ

第五百八十二條　然レトモ借主若シ其義務ヲ行

ハス又ハ契約通リ保証ヲ立ツルヲ肯ヒス或
ハ保証ノ高ヲ減損シ又ハ家資分散ノ言渡ヲ
受ケタル時ハ債主裁判所ヨリ其元金ヲ取還
ス可キ言渡ヲ得ル ノ權アリ

第五百八十三條 年金ハ法律上ニ定メタル利
息ヨリ更ニ多數ノ利息ヲ以テ之ヲ設ケ定ム
ルヲ得可シ但シ其利息ハ特ニ定メタル期
限間之ニ出シ又ハ債主ノ畢生間之ヲ出シ又
ハ年金ヲ設ケ定メタル時生存セシ者ノ畢生
間之ヲ出スヲ得可シ

第五百八十四條 前條ノ場合ニ於テハ元金ヲ
償還スルヲ約定セシ期限毎ニ其拂フタ
ル利息ヲ以テ次第ニ其元金ヲ消却ス可シ

第五百八十五條 年金ノ債主ハ債主其義務ヲ
行ハサル時又ハ其保証ヲ立ツルヲ肯セス
或ハ其保証ノ高ヲ減損シタル時又ハ債主ノ
家資分散シタル時ハ債主ノ財産ヲ競拂ニ其
代價中相當ノ金高ヲ年金ノ利息ヲ得ルニ充
テ用フルヲ得可シ

第五百八十六條 賣買ノ契約ヲ為スニ付キ又

ハ其他ノ契約ヲ為スニ付キ設ケ定メタル条
期ノ年金及ヒ暴生間ノ年金又ハ償ヲ要セサ
ル約束ニテ設ケ定メタル条期ノ年金及ヒ暴
生間ノ年金ハ前条ノ規則ニ循フ可シ

第五章　附託ノ契約

第五百八十七條　附託ノ契約トハ甲者ヨリ乙
者ニ動産ヲ託シ乙者報謝ヲ約スルヲナク其
動産ヲ自己ノ動産ト同シク監守シ甲者ノ求
メ次第其儘ニテ之ヲ還ス可キ契約ヲ云フ

第五百八十八條　若シ報謝ノ契約アル時ハ附
託ノ契約ヲ労力賃貸ノ契約ノ規則ニ循ヒ之
ヲ規定ス可シ

第五百八十九條　附託ヲ受ケシ者ハ契約シタ
ル期限ニ至ラサル前ニ其附託ヲ為シタル者
ヨシテ強テ其物品ヲ取還サシム可カラス

第五百九十條　附託ヲ受ケシ者ハ己レノ重大
ナル過失ノ責ニ任シ且ツ契約書ニ定メタル
如ク懇切ニ注意ヲ加ヘサルノ責ニ任ス可シ

第五百九十一條　附
受ケタル物品ヲ用
ル時ハ附託ヲ為シ
シ

第五百九十二條　附託ヲ受ケシ者ハ附託ヲ為シタル者又ハ其代人ニ其物品ヲ還ス可シ

第五百九十三條　附託ヲ為シタル者ハ物品ヲ保全スルニ付テノ費用ト其物品ノ為メノ損害トヲ附託ヲ受ケタル者ニ償フ可シ

第五百九十四條　附託ヲ受ケシ者ハ已レノ得可キ金高ノ償ニ充ツル為メ其物品ヲ引留ムルノ權アリ

第五百九十五條　物品ノ附託ヲ受クル原因ニ付キ報謝ヲ受クル者例ヘハ旅舍ノ主人荷物ノ運送人等ノ如キハ其物品ヲ失フタルノ責ニ任ス可シ但シ拙劣ニ拒ス可カラサル力ノ為メ之ヲ失フタルノ証アル時ハ格別ナリトス

第五百九十六條　物品ニ付キ爭ノ生シタルニ因リ若シ其附託ヲ為シタル時ハ附託ヲ受ケシ者ヨリ相爭ノ双方ニテ指定メタル人又ハ

裁判所ニテ指定メタル人ニ之ヲ還ス可シ

第五百九十七條　双方ニテ相爭ノ物品又ハ裁判所ニテ預リシ物品ノ附託ヲ受ク可キ者ハ裁判所ヨリ之ヲ指定ムルヿヲ得可シ但シ裁判所ニ於テハ相爭フ一方ノ者ヲ其附託ヲ受ク可キ者ト爲スヿヲ得可シ

第五百九十八條　双方相爭フ物品ノ附託ニ付テハ其報謝ヲ定ムルヿヲ得可シ但シ不動産ト雖モ双方相爭フ時ハ之ヲ附託スルヿヲ得可シ

第五百九十九條　如何ナル場合ニ於テモ通常ノ附託ヲ受クル者ハ其物品ヨリ生シタル利益ヲ還ス可キノ催促ヲ受ケタル時又ハ已レノ資益ノ爲メ其物品ヲ用ヒタル時ヨリ其附託ヲ受ケシ金高ノ利息ヲ拂フ可シ

第六百條　若シ附託ヲ受ケシ者ノ代擔ク正實ノ意ヲ以テ其物品ヲ責リタル時ハ其受取ソタル代金又ハ買主ニ對シ訴訟ヲ爲ス可キノ權ヲ其附託ヲ爲シタル者ニ讓ソ與フ可シ。

若シ百代權人其物品ヲ人ニ賠遣ト為シタル
時ハ其物品ノ見積リ代價ヲ附託ヲ為シタル
者ニ渡ス可シ

第六章　保証ノ契約

第六百一條　保証ノ契約ト雖モ甲者其義務
ヲ行ハサル時乙者之ニ代テ其義務ヲ行フノ可
キコトヲ定ムル契約ヲ云フ

第六百二條　義務ヲ行フ可キ者自己ノ權利ヲ
行フヲ能ハサルニ因リ保証ノ契約ヲ為シタ
ル時ノ外主タル義務ノ効ナキ時ハ其保証ノ
契約モ亦其効ナカル可シ但シ主タル義務ヲ
行フ可キ者ニ告知セスト雖モ其義務ヲ保証
ヲ為スヲ得可シ

第六百三條　保証ノ義務ノ高ハ主タル義務ヨ
リ更ニ多カル可カラス又保証ノ義務ハ主タ
ル義務ヨリ更ニ重剰ナル可カラス

第六百四條　然レトモ保証ノ義務ノ高ハ主タル
義務ヨリ更ニ少ナキコトヲ得可ク又保証ノ義

務ハ主タル義務ヨリ更ニ輕重（寛）ナルヿヲ得可シ

第六百五條　別段ノ契約アラサル時ハ保証ノ義務ヲ主タル義務ノ附從タル諸件（利息費用等ノ如キヲ云フ）ニ及ホス可カラス又保証人ヲシテ主タル義務ヲ行フ可キ者ト連帶セシム可カラス

第六百六條　裁判所ノ言渡ニテ命セラレタル保証ノ義務ハ利息費用及ヒ附從ノ諸件ニ當然及ホス可ク且ツ主タル義務ト連帶セサル可カラス

第六百七條　主タル義務ヲ行フ可キ者契約上ノ保証人又ハ裁判上ノ保証人ヲ立ツ可キヿヲ約束シタル時若シ最初ノ保証人其義務ヲ行フヿ能ハサルニ至ルニ於テハ更ニ他ノ保証人ヲ立テサル可カラス

第六百八條　保証人ヲ立ツ可キノ義務ハ訴訟法ニ定メタル法式ニ循ヒ之ヲ行フ可シ

第六百九條　主タル義務ヲ行フ可キ者ト連帶セサル保証人ハ主タル義務ヲ行フ可キ本人ノ財産ヲ以テ其義務ノ全部ヲ行フニ充テ用

ヒシムルニ足ル可キ時ハ義務ヲ行ハシム可キ者ヲシテ其義務ヲ行フ可キ者ニ對シ訴訟ヲ為サシム可キノ要メヲ為スヿヲ得可シ但シ保証人其要メヲ為ス可キ權利ヲ抛棄シタル時ハ格別ナリトス

故ニ裁判所ニ於テハ義務ヲ行ハシム可キ者ヨリ保証人ニ對シ為シタル訴訟ヲ暫ク停止セシム可キト否トヲ裁斷ス可シ但シ其義務ヲ行ハシム可キ者ノ權利ヲ保護ス可キ所為ヲ行フハ格別ナリトス

第六百十條　主タル義務ヲ行ハシム可キ者ヨリ之ヲ行フ可キ者ニ猶豫ノ期限ヲ許ルシタル時ト雖モ保証人ハ主タル義務ヲ行フ可キ期限ニ至リ之ヲ行フ可キ者ニ對シ訴ヲ為スノ權アリ但シ主タル義務ヲ行ハシム可キ者保証人ノ義務ヲ釋放シタル時ハ格別ナリトス

第六百十二條　又保証人ハ主タル義務ヲ行フ可キ期限ニ至ラサル前ト雖モ其義務ヲ行フ可キ者若シ家資分散ヲ為シタル時ハ其者ニ

對シテ訴ヲ為スノ權アリ

第六百十二條　若シ同一ノ主タル義務ニ付キ一通ノ証書ヲ以テ保証人數名ヲ立ツルト雖モ其數名ノ互ニ連帶ス可キ一ヲ契約セサル時ハ義務ヲ行ハシム可キ者各保証人ニ對シ其各〻擔當ス可キ部分ノミニ付キ訴訟ヲ為スノ權アリ

第六百十三條、若シ保証人數名漸次ニ記シタル証書ヲ以テ義務ヲ契約シタル時ハ其互ニ連帶セシコトヲ思料ス可カラス然レトモ其時ノ景狀ニ因リ其數名ヲ互ニ連帶シタルモノト定ムルコトヲ得可シ

第六百十四條　保証人主タル義務ヲ其期限ニ至リ行フヲタル時ハ其義務ヲ行フ可キ本人ニ對シ訴訟ヲ為スノ權アリ但シ保証人ハ義務ヲ行ハシム可キ者ノ權ニ代ハルコトヲ得可シト雖モ其者ヨリ其權ヲ行フノ後ニ非サレハ其權ヲ行フヲ得ス

第六百十五條　連帶シタル保証人數名アリテ其中ノ一名上タル義務ノ全部ヲ其期限ニ至

リ行フタル時ハ他ノ各保証人ヲシテ各其擔
當ス可キ部分ヲ已レニ償ハシメ若シ其保証
人中ニ義務ヲ盡ス能ハサル者アル時ハ其
者ノ部分ヲ他ノ者ニ分配ス可キコトヲ要スル
ヲ得可シ

第六百十六條　保証人ハ主タル義務ヲ行フ前
又ハ之ヲ行フ可キ旨ノ訴ヲ受ケタル時其義務
ヲ行フ可キ者ニ其告知ス可シ若シ其告
知ヲ為サスシテ主タル義務ヲ行フ可キ者自
カラ之ヲ行フタル時又ハ其義務ノ効ナカル
可キ言渡ヲ得可キ証人其者ニ對シテ訴訟ヲ為スノ権ヲ失フ可
シ

第六百十七條　主タル義務ヲ行フ可キ者ヲ其
期日ニ至リ本席セシム可キコトヲ保証スル者
ハ主タル義務ヲ行フ可キ者若シ其日ニ出席
セサル時ハ自カラ其義務ヲ行フ可シ

第六百十八條　若シ其期日ニ至リ主タル義務ヲ
行フ可キ者本席シタル時ハ保証人其義務ノ
釋放ヲ得可シ

第六百十九條　保証人ハ主タル義務ヲ行フ可キ者ト同時ニ義務ノ釋放ヲ得且ツ其者ト同シク義務ヲ行ハシム可キ者ノ訴ニ抗拒スルノ權アリ但シ主タル義務ヲ行フ可キ者ノ一身ニ限リタル權利ハ格別ナリトヌ

第六百二十條　保証人ハ主タル義務ヲ行ハシム可キ者ノ自己ノ過失ニ因リ失フタル保証ノ價高ニ至ル迄其保証ノ義務ノ釋放ヲ得可シ

第六百二十一條　若シ主タル義務ヲ行ハシム可キ者其義務ヲ行ハシムルニ代ヘ一箇ノ物品ヲ受取リタル時ハ縱令外ニ其物品ヲ已レノ所有ナリト述フル者アリト雖モ保証人ハ其義務ノ釋放ヲ得可シ

明七

臨時第九号ノ内

司法省民法課

埃及法律書　民法草案

三十八葉

五

第七章　名代ノ契約

第六百二十二條　名代ノ契約トハ甲者乙者ノ名目ヲ以テ乙者ノ為メ事ノ為ス可キノ仕ヲ受クル契約ヲ云フ

第六百二十三條　名代ノ事業ヲ執行ト始メタル時ハ名代ノ契約ヲ承諾シタルト看做スヲ得可シ

第六百二十四條　名代ノ契約ハ報謝ナクシテ為シタルモノト看做ス可シ但シ之ニ反シタル契約アル時又ハ其契約ナシト雖モ名代人ノ模様ニ因リ報謝ヲ授受ス可キ定メヲ為シタルヲ知リ得可キ時ハ格別ナリトス

第六百二十五條　名代人ハ名代ノ契約ニ仕カス可シ

裁判役ノ裁決

第六百二十六條　名代ノ契約ハ特別ノモノアリ

第六百二十七條　特別ノ名代ノ契約ハ特ニ定メタル事ヲ已ムヲ得サル其引續キノ事トニ付キ本人ニ代リ憂置ヲ為スノ権ヲ授クルノミトス

第六百二十八條　一般ノ名代ノ契約ヲ為シタル時ト雖モ唯其支配ノ所務ヲ為ス可キノ権ヲ授クルノミトス

第六百二十九條　名代人自認（アビュウ）ヲ為シ又ハ誓ヲ為スヲ求メ又ハ裁判所ニ於テ訴訟ノ本案ヲ論辨シ又ハ判斷人（アビトル）ノ裁斷ニ仕カセ又ハ権利ノ和解ヲ為シ又ハ不動産或ハ不動産ニ付テノ権利ヲ譲リ又ハ人ヲシテ行ハシム可キ義務ノ未タ消散セサル中ニ其義務保証ヲ抛棄シ又ハ何事ニ因ラス償ヲ契約セサル証書ヲ承諾スルニハ特別ノ名代ノ契約書アルヿ又ハ一般ノ名代ノ契約書中ニ記スル別段ノ権アルヿヲ証セサル可カラス

第六百三十條　本人ノ不動産ヲ譲リ渡ス可キ名代ノ契約書アル時ハ特ニ指定メサル總テノ不動産ヲ譲リ渡スノ権ヲ包含シ又本人ノ権利ニ付キ判斷人ノ裁斷ニ仕カセ或ハ其権利ニ付キ和解ヲ為ス可キ名代ノ契約書アル時ハ特ニ指定メサル権利ト雖モ裁判人ノ裁

斷ニ仕カセ又ハ和解ヲ為ス可キノ権ヲ包含ス可シ故ニ概シテ之ヲ言ヘハ一種ノ事業ニ付キ一般ノ名代ノ契約書アル時ハ縦令其事業ヲ特ニ指定メスト雖モ其名代ノ契約ノ効アル可シ但シ報償ヲ契約セサル証書ニ管シタル時ハ格別ナリトス

第六百三十一條

名代人ト契約ヲ為サントスル者ハ常ニ其名代ノ契約書ノ公正ナル寫ヲ檢視セント要ムルノ権アリ

若シ一箇ノ契約書ヲ以テ名代人數名ヲ仕ヘ各自ニ事ヲ為ス可キノ権ヲ授クル旨ヲ記セサル時ハ其數名合同シテ事ヲ為サヽルヲ得ス

第六百三十二條

為ス可キ者ヨリ名代人更ニ己レニ代テ事ヲ為ス可キノ権ヲ受ケ可シ

若シ本人ヨリ名代人ニ代リ事ヲ為ス可キ者ヲ特ニ指定メサル時名代人ノ擇ミタル者其義務ヲ行フ能ハサルニ至リ又ハ事ヲ為スノ能カナク又ハ著シク怠惰ナルニ於テハ名代

人其責ニ任ス可シ

第六百三十四條　名代人ハ如何ナル場合ニ於テモ名代人ニ代リシ者ハ直チニ本人ニ對シ責ニ任ス可シ

第六百三十五條　名代人ハ己レノ大ナル過失ト己レノ意ヲ以テ名代ノ契約ノ如ク執行ハサルコトノ責ニ任ス可シ

第六百三十六條　名代人若シ報謝ヲ得ル時ハ鎖小ノ過失ト雖モ其責ニ任ス可シ

第六百三十七條　名代人ハ時宜ニ適セル其名代ノ權ヲ拋棄ス可カラス又名代人ハ其權ノ終ル可キ方法如何ヲ問ハス其既ニ取掛リシ事業ノ妨害トナラサル樣之ヲ修整ス可シ但シ本人ヨリ特ニ其名代人ヲ廢シタル時ハ格別ナリトス

第六百三十八條　又名代人ノ遺物相續人其名代ノ事ト既ニ取掛リシ事業トヲ知リタル時ハ前條ニ記スル所ト同一ナリトス

第六百三十九條　若シ名代人其名代ノ事ヲ人ニ知ラシメス本人ノ爲メ事ヲ爲シタル時ハ

其義務ヲ已レ一身ニ負フ可シ

第六百四十條　名代人本人ノ名目ニテ且其本人ノ為メ事ヲ為ス旨ヲ人ニ知ラシメタル時ハ名代ノ契約アルヲ証スルヿノ外已レ一身ニ義務ヲ負フヿナカル可シ

第六百四十一條　名代人其名代ノ権限ヲ人ニ知ラシメタル時ハ縱令其権外ノ事ヲ為スト雖モ其責ニ任スルヿナシ

第六百四十二條　名代人ハ其所為ヲ本人ニ報告シ且本人ノ為メ受取リタル金高ヲ本人ニ算計ス可シ

第六百四十三條　名代人ハ本人ヨリ金高ヲ渡ス可キ催促ヲ受ケシ日ヨリ其金高ノ利息ヲ擔當ス可ク又本人ノ為メ受取リシ金高ヲ已レノ資益ノ為メ用ヒタル日ヨリ其金高ノ利息ヲ擔當ス可シ

第六百四十四條　名代人ハ本人ノ為メ金高ヲ立替ヘタル日ヨリ其利息ヲ得ルノ権アリ

第六百四十五條　本人ハ已レノ名目ニテ名代人ノ其契約書ニ因リ負フタル義務ヲ行フ可

ノ又名代人ノ其権外ニ為シタル事ハ之ヲ許
認スルト否トヲ相當ノ期限間ニ告知ス可シ
第六百四十六條
事業ノ成就シタルト否トヲ問ハス名代人ノ
正當ニ出セシ費用ヲ償フ可シ但シ名代人ニ
過失アル時ハ格別ナリトス
第六百四十七條
名代人ノ権ハ左ノ諸件ニ因テ
終ル可シ
名代人ヲ廃スル事
名代人ノ権ヲ授ケシ事業ノ成就シタル事
名代人其権ヲ抛棄シテ本人ニ其旨ヲ告知
シタル事
名代人又ハ本人ノ死去シタル事
第六百四十八條
人ヲ廃シタル時縦令本人ノ死去シ又ハ名代
人ノ廃シタル時ト雖モ此等ノ事ヲ知ラサル
間ニ對シ之ヲ申立テ、其訴ニ抗拒ス可カラ
ス
第六百四十九條
名代人ハ其名代ノ権ノ終リ
ニ至リ其委任ノ契約証書ヲ本人ニ還ス可シ

第八章　和解ノ契約

第六百五十條　和解ノ契約トハ双方ノ間ニ既ニ生シタル爭ヲ了シ又ハ生セントスル爭ヲ預メ防ク可キ為メ双方互ニ其権利ノ一部ヲ抛棄スル契約ヲ云フ

第六百五十一條　國ノ大事ニ管係シタル條件又ハ公ケノ安寧ニ管係シタル條件ニ付テハ和解ノ契約ヲ為ス可カラス然レ𪜈國ノ大事又ハ犯罪條件ノ引續キタル金高ヲ得ル権利ニ付テハ和解ノ契約ヲ為スヿヲ得可シ

第六百五十二條　已レノ権利ヲ隨意ニ為スヿヲ得可キ者ニ非サレハ其権利ニ付キ和解ノ契約ヲ為ス可カラス

第六百五十三條　和解ヲ為シ権利ヲ抛棄シタル時ハ特ニ其和解ノ契約書ニ記スル所ノ権利ノミヲ抛棄シタルト看做シ且ツ其契約書ノ文詞如何ナルヲ問ハス其和解ヲ為セシ事ノ目的タル権利ノミヲ抛棄シタルト看做ス可シ

第六百五十四條　和解ノ契約ハ一方ノ詭欺ヲ

行ヒ又ハ人或ハ物ヲ錯誤シタル時又ハ和解ノ後ニ至リ其ノ証書ノ贋造タルヲ識認シタル時ニ非サレハ之ヲ取消サンコトヲ訴フルヲ可カラス

第六百五十五條　和解ハ計ノ錯誤ハ之ヲ改正スル可シ

第六百五十六條　和解ヲ為シタル権利ニ付テノ保証ハ和解ノ契約ノ如ク執行ハシムルニ付テモ亦存続ス可シ然レトモ其保証人又ハ保証ノ為メ損失ヲ受ク可キ者ハ嘗テ其和解ノ前右ノ権利ヲ行フニ抗拒ス可キ総テノ憑據ヲ申立テ其権利ヲ行フ者ノ訴ニ抗拒スルヲ得可シ

第六百五十七條　和解ヲ為シタル事業ニ付キ共ニ管係セシ者アル時ハ和解ノ肯ヲ申立テ其者ノ権利ニ抗拒ス可カラス又其者ヨリ和解ノ肯ヲ為シタル双方ノ権利ニ抗拒ス可カラス

第六百五十八條　和解ハ縦令契約書ニ和解ノ契約書タル名義ヲ附スルト雖モ其實賣買又ハ贈遺

ノ契約又ハ何ノ種類ニ限ラス總テ其他ノ契
約書タル時ハ右假稱ヲ附シタル契約書ノ其
名ノ本義ト齟齬セサルモノヲ除クノ外前數
條ニ記シタル規則ヲ右ノ契約書ニ通シ用ヲ
可カラス

第九章　質入ノ契約

第六百五十九條　質入ノ契約ト雖モ負債者其負
債ヲ償フノ保証トシテ其債主又ハ双方協議
シテ定メタル者ニ物件ヲ渡シ債主ヲシテ全
ク其債ノ償ヲ得ルニ至ル迄其物件ヲ引留メ
且其物件ノ代價ヲ以テ他ノ債主ニ先タテ債
ノ償ヲ得ルノ特權ヲ得セシムル契約ヲ云フ

第六百六十條　若シ質物其質入人ノ手ニ戻ル
時ハ質入契約ノ効カナカル可シ

第六百六十一條　一箇ノ質物ヲ以テ相繼テ數
箇ノ負債ヲ保証スルヿヲ得可シ但シ之レカ
為メニハ其質物ヲ保有スル者債主數名ノ箕

計ノ為メ之ヲ保有スル可キコトヲ承諾シタルトキ
必要トス

第六百六十二條　負債者若シ其債ヲ償ハサル時ハ其質物ヲ債主ノ所有物ト為ス可キコトヲ契約スル可カラス唯其債主ハ總テ其他ノ債主ト同シク其質物ヲ賣ラント要ムルノ權アルノミトス

第六百六十三條　質物ヲ保有スル者ハ之ヲ監守ス可シ若シ偶然ノ事ニ因リ之ヲ失フ時ハ質入人ノ損失タル可シ

第六百六十四條　質物ヲ預リタル債主ハ其質物ヨリ一身ノ利益ヲ得可カラス

第六百六十五條　質物ヲ預リタル債主ハ其質物ヨリ生ス可キ總テノ利益ヲ生セシム可シ且其利益ヲ以テ先ツ負債ノ利息ヲ償フニ充テ用ヒ次ニ其元金ヲ償フニ充テ用フ可シ但シ負債ノ未タ償還期限ニ至ラサル時ト雖モ亦同樣ナリトス

第六百六十六條　質物ノ全部ヲ以テ負債ノ各部ヲ保証ス可シ

第六百六十七條　質物ハ動産又ハ不動産タルヲ得可シ

第六百六十八條　他人ノ負債ヲ保証スル為メ物件ヲ質入スルヲ得可シ

第六百六十九條　動産ノ質入ハ日附ノ慥カナル証書ヲ以テ之ヲ証シ且其証書ニ負債ト其質物ト為スニ指定スルニ非サレハ他人ニ対シテ其質入ノ効ナカル可シ

第六百七十條　義務ヲ行ハレサル可キ権利ヲ質物ト為スニハ其権利ノ証書ヲ渡シ且其権利ヲ移ス為メ必要ナル法式ヲ行フヲ必要トス

但シ商業ニ管シ規則ハ格別ナリトス

第六百七十一條　不動産ノ質入ハ其証書ヲ不動産書入質役所ノ簿冊ニ登記スルニ非サレハ他人ニ対シテ其効ナカル可シ

第六百七十二條　不動産ヲ質入ニ為スト雖モ其証書ヲ不動産書入質役所ノ簿冊ニ登記スル前ニ添ニ適シテ其不動産ニ付キ得タル物権ヲ害ス可カラス

第六百七十三條　不動産ヲ質トシテ得タル債主ハ其不動産ヲ補理シ及ヒ之ヲ保全スルニ必要ナル費用ヲ出シ且其租税ヲ納ム可シ但シ其債主ハ其不動産ノ利益ヲ以テ右ノ出銀ヲ償ヒ又ハ其不動産ノ代價ヲ以テ他ノ債主ヨリ先キニ右出銀ノ償ヲ得可シ

第六百七十四條　前條ノ債主ハ其質物ヲ得ル権ヲ抛棄スルニ因リ右ノ義務ヲ免ルヽヿヲ得可シ

第四篇　債主ノ権利

第一章　債主ノ種類

第六百七十五條　債主ノ種類ニ四箇アリ

第一　通常ノ債主但シ此債主ハ各〻其貸高ニ准シ負債者ノ諸般ノ財産ヲ以テ償ヲ得可キ者ナリ

第二　不動産書入質ノ権アル債主但シ此債主ハ特ニ定メタル法式ヲ行フタルニ因リ其負債者ノ不動産一箇又ハ数箇ノ何人ノ手ニ移ルヲ問ハス其代價ヲ以テ通常ノ債主ヨリ先キニ償ヲ得可キ特権ヲ有スル者ナリ

第三　先取リノ特権アリ債主但シ此債主ハ其権利ノ本性ニ因リ特ニ定メタル負債者ノ動産又ハ不動産ノ代價ヲ以テ總テ他ノ債主ヨリ先キニ償ヲ得ルノ特権ヲ有スル者ナリ

第四　引留ノ権アル債主但シ此債主ハ他ノ債主ニ勝リ全ク其償ヲ得ルニ至ル迄其負債者ノ或ル財産ヲ已レニ引留ム可

キ特権ヲ有スル者ナリ

第一款　通常ノ債主

第六百七十六條　通常ノ債主ハ法律上ニ定メタル法式ニ循ヒ其負債者ノ諸般ノ財産ヲ以テ償ヲ得可キノ権アリ

第六百七十七條　負債者代價ヲ得テ已レノ財産ヲ賣拂ヲト雖モ債主ノ権利ヲ害スル為メ之ヲ為シタル時ニ非サレハ債主其故障ヲ述フ可カラス

第二款　不動産書入質ノ権アル債主

第六百七十八條　不動産書入質ノ権ハ債主トシテ裁判所ノ書記局ニ於テ公正ノ証書ヲ記シ其契約ヲ為シタル時ニ非サレハ之ヲ得可カラス

第六百七十九條　已レノ財産所有ノ権ヲ人ニ移スノ権ナキ者ハ不動産ノ書入質ヲ承諾スル可カラス

第六百八十條　羅馬ニ為スヲヲ得可キ本性ノ不動産ニ非サレハ書入質ニ為ス可カラス

第六百八十一條　書入質ト為シタル不動産ニ

付テハ其本性ト其所在ノ場所トヲ詳カニ指示スヘシ可ク且負債ノ高ヲ証書ニ指定ム可シ若シ此等ノ事ヲ詳カニ為サヽル時ハ書入質ノ効ナカル可シ

第六百八十二條

一ノ資本金中ヨリ時々其金高ヲ拂フヿヲ保証スル為メ又ハ高賣取引ノ渡金ヲ保証スル為メ不動産ヲ書入質ニ為シメ又ハ取引ノ渡金ノ最大数幾許ナルヤヲ定メ得可キニ於テハ其書入質時其時々ノ拂ノ効アリトス

第六百八十三條

産偶然ノ事ニ因リ減盡又ハ毀損シ保証ノ用ヲ為スニ足ラサルニ至ル時ハ負債者他ノ不動産ヲ書入質ト為シ又ハ償還期限ニ至ラサル前ニ其負債ヲ償フヿ自由タル可シ○若シ負債者又ハ書入質ト為シタル不動産ノ保有者ノ過失ニ因リ其不動産ヲ滅盡シ又ハ毀損シタル時ハ債主ハ右ニ件中ノ一ヲ擇ムヿヲ得可シ

第六百八十四條

将來所有ト為サントスル不

動産ノ書入質ハ其効ナカル可シ

第六百八十五條　不動産ヲ書入質ニ為シタル時ハ其不動産ハ勿論之レト分別ス可カラサル附從ノ不動産ト其所有者ノ資益タル可キ手入レ並ニ造築ヲモ亦其書入質中ニ包含ス可シ

第六百八十六條　不動産書入質ノ権ハ其所有者他人ノ為メニ其所有ノ権ヲ奪ハル、ヿナキ中ニ其不動産所在ノ地ノ書入質役所ノ簿冊ニ書入質ノ証書ヲ記入シタルニ非サレハ之ヲ行フ可カラス但シ家資分散ノ事ニ付キ定メタル規則ハ捨別ナリトス

第六百八十七條　不動産書入質ノ証書ノ記入ハ二通ニ記シタル目録（ホルテロー）即チ証書ニ據テ之ヲ為ス可シ但シ此目録ニハ左ノ諸件ヲ記ス可シ

第一　債主ノ姓名、職業、居所及ヒ裁判所ノ管轄地内ニ特ニ其住所ヲ擇ミ定メタル事但シ特ニ住所ヲ擇ミ定メタルヿヲ記セサル時ハ相手方ヨリ裁判所ノ書記局ニ諸書類ヲ送達シ其債主ノ住所ニ之ヲ

送達シタル同シキ効アリトス

第二　負債者又ハ不動産ヲ書入質ニ為ス
ヿヲ承諾シタル其所有者ノ姓名、職業、居
所

第三　書入質ノ契約書ノ日附及ヒ其契約
書ヲ記シタル書記局ノ名

第四　書入質ノ契約書ニ記シタル負債ノ
高及ヒ負債償還期限

第五　書入質ト為シタル不動産ノ詳細ヲ
記載スルヿ

第六百八十八條　債主数名ハ縦令同日ニ其不動産書入質ノ証書ヲ記入ノ順序ニ従ヒ不動産ヲ還ヲ得又火災ノ時ハ火災受合ノ高ヲ以テ其償還ヲ得可シ

第六百八十九條　債主其不動産書入質ノ証書ヲ記入シタル時ハ債ノ元金ノ外其二年間ノ利息ノ保証ヲ得可シ但シ之レカ為ノニハ其不動産ノ代價ヲ以テ分配スル時ニ當リ其利息ノ拂期限ニ至リシヿヲ必要トス

第六百九十條　十年ノ後ニ至リ更ニ改メテ記
入ヲ爲サヾル時ハ其記入ノ効ヲ失フ可シ但
シ債主一旦其記入ノ効ヲ失ヒシ後猶添ニ適
シテ記入ヲ爲シ得可キ時ハ更ニ其記入ヲ爲
シ其記入ノ時ヨリ其書入質ノ權ノ順序ヲ定
ム可シ

第六百九十一條
ハ其期限ノ終リタル後又通常ノ賣買ノ時ハ
買主其不動産ヲ讓責ニ爲ス可キ時ハ
現ニ其代價ヲ增高ノ有無ヲ問ハス
供シテ債主之ヲ承諾シタル
後ハ債主其書入質ノ記入ヲ改メ爲スニ及ハ
ス

第六百九十二條
ハ控訴ス可カラサルニ至リシ裁判言渡アル
ヿ又ハ債主ヨリ書記局ニ承諾ノ証書ヲ出シ
タルヿヲ必要トス

第六百九十三條
動産所在ノ地ノ記入ノ塗抹ヲ要ムル訴ハ不
負債ニ管スル訴裁判所ニ之ヲ爲ス可シ但シ
ス時ハ格別ナリ附帯シテ右塗抹ノ訴ヲ爲
ト

第六百九十四條

質ノ権アル債主ハ負債者ニ要決ノ書ヲ送リタル上ニテ訴訟法ニ記スル法式ト期限トニ循ヒ其書入質ノ不動産ヲ差押ヘ之ヲ賣拂フ手續ニ取掛ルヲ得可シ但シ其書入質ノ権アル債主ヨリ負債者ニ對シテ訴ヲ為ス可キ一身ノミニ限リタル権利ヲ行フハ格別ナリトス

第六百九十五條

産ヲ外ニ保有スル者アル時ハ債主訴訟法ニ記シタル法式ニ循ヒ其保有者ニ負債ヲ償ヒ又ハ其不動産ヲ抛棄ス可キ要決ノ書ヲ送リシ後ニ非サレハ其差押ニ取掛ル可カラス

第六百九十六條

者ハ負債ヲ償フテ債主ノ権利ニ代リ又ハ其負債ヲ償フニ代ヘ其不動産ノ買入代價ヨリ少カラサル可キ見積リ代價ヲ提供シ又ハ其不動産ヲ抛棄シ又ハ不動産差押ノ訴訟手續ヲ受クルヿ自由ナリトス

第六百九十七條

保有者ノ負債ヲ償フ権及ヒ

不動産ヲ拋棄スル権ハ差押ノ上競賣ヲ為ス
時ニ至ル迄存在ス可シ

第六百九十八條　保有者ハ不動産差押ニ付テ
ノ費用及ヒ差押後ノ費用ヲ提供ス可シ但シ
保有者ハ負債者ニ對シ其及ヒ以前ノ所有者ニ對シ其
償ヲ得可キ訴ヲ為スノ権アリ

第六百九十九條　負債ヲ償フニ代ヘ不動産ノ
見積代價ヲ提供スル権ハ其差押ニ至ル迄存
在ス可シ

第七百條　負債ヲ償フタル保有者債主ノ権ニ
代リ其債主ノ書入質記入ノ資益ヲ已レニ得
タル時ハ當テ保有者ノ其不動産買入ノ証書
ヲ役所ノ簿冊ニ登記セシ時存在シタル總テ
ノ書入質ノ記入ヲ塗抹スルニ至ル迄已レノ
書入質ノ記入ヲ保テ置キ改メテ之ヲ記入ス
可シ

第七百一條　保有者ハ其不動産ノ見積リ代價
ヲ提供スルト雖モ債主ノ之ヲ承諾シタル時
ニ非サレハ其義務ヲ免カル可カラス

第七百二條　保有者ハ催促書ヲ受クルヿナシ

ト雖モ提供ヲ為スヿヲ得可シ

第七百三條　代價ノ見積ハ書入質ト為シタル不動産ノ各部ニ付キ各自ニ之ヲ為ス可シ

第七百四條　負債ヲ償フ可キ期限ノ如何ナルヲ問ハス現金ニテ提供ヲ為ス可ク其他ノ方法ニテ之ヲ為ス可カラス

第七百五條　其提供ノ書面ハ書入質ノ権ヲ記入シタル各債主ノ其記入ハ文中ニ指定メタル住所ニ送達シ且其書面ニ添ヘテ左ノ諸件ヲ報告ス可シ

第一　不動産買入ノ契約書但シ其契約書ニハ契約ヲ為ス者ノ姓名、契約シタル代價及ヒ其契約ノ費用並ニ不動産所在ノ地

第二　買入ノ契約書ヲ役所ノ簿冊ニ登記シタル日附及ヒ番號

第三　書入質証書ノ日附及ヒ其証書ヲ記入シタル日附及ヒ債主ノ姓名ヲ記載シタル現存ノ書入質記入ノ目録

第七百六條　各債主最終ノ提供ノ書面ヲ受取

リタル時ヨリ六十日内ニ訴訟法ニ記シタル
法式ニ循ヒ書記局ニ競賣ヲ為スノ届書ヲ出
サヾル時ハ其提供ヲ承諾シタルト看做ス可
シ

第七百七條　右六十日ノ期限ハ債主ノ真ノ住
所ト其特ニ擇ミ定メシ住所トノ間ノ距離ニ
准シ更ニ猶豫ヲ加フ可シ然レトモ其猶豫ノ期
日ハ六十日ヨリ多カル可カラス

第七百八條　不動産ノ競賣ニ付キ各債主ノ管
係スル所ハ其得可キ高ノ償還ニ充テタル其
不動産ノ一部ニ限ル可シ

第七百九條　競賣ノ届ヲ為シタル時ハ書入質
ヲ記入セシ總テノ債主ノ承諾アルニ非サレ
ハ之ヲ止ム可カラス

第七百十條　一旦届出シタル競賣ヲ止ムルニ
ハ不動産所在ノ裁判所ノ書記局ニ其旨ヲ
届ク可シ

第七百十一條　債主中何人ニテモ至急吟味掛
リ裁判役ニ不動産ノ附記ヲ受ク可キ者ヲ仕
ス可キ訴ヲ為シ其者ニ對シテ不動産差押ノ

手續ヲ為ス可シ

第七百十二條　不動産ノ保有者自カラ其附記ヲ受ケント願出ル時ハ之ヲ其者ニ附記ス可シ

第七百十三條　不動産ノ保有者之ヲ拋棄シ又ハ其差押ヲ受ケル時ハ嘗テ負債ヲ償ヒ又ハ不動産ヲ拋棄ス可キ催促ヲ受ケシ以來其不動産ヨリ生シタル總テノ利益ヲ還ス可シ但シ債主其催促ノ効ヲ失フタル時ハ格別ナリトシ且三年ノ後ニ至レハ當然其催促ノ効ヲ失フ可シ

第七百十四條　保有者ノ出シタル費用ハ總テ買入ル、者ハ代價中ニ加フ可シ

第七百十五條　不動産ヲ總テ買入ル、者ハ得サル費用ヲ其保有者ニ償ノ代價ノ外已ムヲヒ旦有益ナル費用ヲモ亦不動産ノ增價ニ至ル迄其保有者ニ償フ可シ

第七百十六條　保有者ハ己レノ所為又ハ過失ニ因リ其不動産ヲ毀損シタルノ責ニ任ス可シ

第七百十七條　保有者當テ不動産ヲ買入ル、
前ニ其不動産ニ付キ有シタル土地ノ權利及
ヒ物權ハ更ニ之
シタル書入質ノ
其書入質ノ記入
抹スルニ非サレハ其書入質ノ權
シテ以前ノ順序ヲ保タシム可カラス

第七百十八條　若
ヲ為シタル各債
時ハ保有者ヨリ

ル債主以前ノ所有者ノ債主ニ次キ其代價ノ
餘分ヲ以テ其得
第七百十九條　不動産ノ保有者代價ヲ出シテ
之ヲ買入レタル
之ヲ拋棄シタル
シ其償ヲ得ル
有者ハ如何ナル
問ハス其拂出シ
要ムルノ權アリ

第七百二十條　又不動産ノ保有者之ヲ保ツ

ヲ得又ハ糶ニテ之ヲ買入レタル時ハ名義ノ如何ヲ問ハス其以前ノ買入契約書ニ定メタル高ノ外其拂出シタル金高ノ償還ヲ負債者ニ要ムルノ権アリ

第七百二十一條　裁判所ノ命ニテ不動産ヲ糶賣ニ為シタル時之ヲ買入レシ者ハ後ニ之ヲ拋棄ス可カラス○其者ハ書入質ノ記入ヲ為シタル各債主ニ其買入代價ヲ拂フ可ク更ニ餘分ヲ拂フニ及ハス但シ訴訟法ニ記シタル糶賣ノ規則ハ格別ナリトス

第三款　先取リノ特権アル債主

第七百二十二條　左ノ諸件ニ付テハ債主先取リノ特権ヲ行フコヲ得可シ

第一　負債者ノ財産ヲ保全シ及ヒ人ヨリ其財産ヲ取戻ス為メノ裁判所費用但シ此費用ヲ出シタル者ハ之レカ為メ資益ヲ受クル債主ニ先タテ右財産ノ代價ヲ以テ其償還ヲ得可シ

第二　財産ノ賣拂又ハ其差押又ハ家資分散ノ前一年間ノ雇人給料及ヒ六月間ノ

二丁又ハ手代ノ給料但シ此給料ハ裁判所費用ニ次キ其償還ヲ得可シ

此先取リノ権ハ負債者ノ動産及ヒ不動産ニ付キ之ヲ行フコトヲ得可シ

第三　本年ノ収納物ニ付テノ費用及ヒ其収納物ヲ生シタル種子ニ付テノ費用ハ此順序ニ従ヒ前ニ記シタル二種ノ特権ニ次キ其収納物ノ代價ヲ以テ其償還ヲ得可シ

此三種ノ特権ハ之ヲ記入シタルト否トニ管セス之ヲ行フコトヲ得可シ

第四　負債者ノ現ニ保有スル農業器具ニ付キ得可キ用及ヒ雇人等ノ給料ニ次キ右器具ノ代價ヲ以テ其償還ヲ得可シ

第五　家屋又ハ土地ノ賃貸及ヒ總テ此等ノ名義ヲ以テ賃主ノ得可キ金高但シ此等ノ金高ニ付キ賃借シタル家屋ニ備ヘシ總テノ動産又ハ土地ノ賃借人ニ属スル本年ノ収納

物ノ代價ヲ以テ其償還ヲ得可シ但シ其
收納物ヲ右賃借シタル土地外ニ貯ヘタ
ル時ト雖モ亦同樣ナリトス

第六　負債者ニ物件ヲ賣リタル者ノ得可
キ金高又ハ負債者ノ人ヨリ物件ヲ買入
ル、其代價ニ供スル旨ヲ日附ノ證カナ
ル證書ヲ別段記入シ負債者ニ金高ヲ貸
シタル者ノ得可キ金高但シ此等ノ金高
ハ賣買シタル動産ニ付テハ高業上ノ規
則ヲ除クノ外買主（即チ負債者）之ヲ保有ス
ル間其動産ノ代價ヲ以テ其償還ノ特權
ヲ得又不動產ニ付テハ賣買ノ証書ヲ添
ヘテ役所ノ簿冊ニ登記シタル時其
不動產ノ代價ヲ以テ其償還ノ特權ヲ得
可シ

此不動產ニ付テノ特權ハ登記ノ日附ノ
順序ニ從フ可シ

第七　旅舍ノ主人ノ得可キ金高但シ此金
高ハ旅客ノ荷物ヲ以テ其償還ヲ得可シ

第七百二十三條　不動產ヲ共通シテ之ヲ分派

ス ル 者 ハ 其 不 動 産 ニ 付 キ 先 取 リ ノ 特 権 ヲ 有
ス 可 シ 但 シ 其 特 権 ハ 別 段 ノ 契 約 ナ シ ト 雖 モ
書 入 質 役 所 ノ 簿 冊 ニ 之 ヲ 記 入 シ タ ル ニ 因 リ
其 記 入 ノ 順 序 ニ 従 テ 之 ヲ 保 有 ス 可 ク 若 シ 其
不 動 産 ノ 分 派 ニ 付 キ 其 共 通 者 中 ノ 一 人 ニ 損
害 ヲ 生 ス ル 時 ハ 其 一 人 ヨ リ 之 ヲ 訴 フ ル コ ヲ
得 可 シ

第七百二十四條

負 債 者 ノ 動 産 ヲ 保 全 ス ル 為
メ 裁 判 所 費 用 ヲ 出 シ タ ル 者 ハ 總 テ 其 他
ノ 債 主 ニ 先 タ チ 又 其 費 用 ヲ 出 シ タ ル 数 次 中
ニ 於 テ ハ 其 証 書 ノ 日 附 ニ 反 對 シ タ ル 順 序 ニ
従 ヒ 右 動 産 ノ 代 價 ヲ 以 テ 其 償 還 ヲ 得 可 シ

第七百二十五條

前 條 ニ 記 シ タ ル 以 外 ノ 動 産
ニ 付 テ ノ 特 権 ハ 他 ノ 律 例 又 ハ 特 別 ナ ル 法 律
ニ 之 ヲ 規 定 ス

第四款　財産引留ノ権アル債主

第七百二十六條

特 別 ナ ル 場 合 ニ 於 テ 法 律 上
ニ 定 ム ル 財 産 引 留 ノ 権 ヲ 有 ス ル 者 ハ 其 引
留 ノ 権 ヲ 有 ス 可 シ

第一　財産ヲ質ニ取リタル先取リノ特権

アル債主

第二 財産ヲ良好ニ為スタメ費用ヲ出シタル者

第三 財産ニ付キ已ムヲ得サル費用又ハ財産ヲ保全スル為メノ費用ヲ出シタル者

第二章 物権ノ證

第七百二十七條 何事ニ限ラス財産所有ノ権及ヒ財産ニ付テノ物権ハ以前ノ所有者ニ對シテハ所有ノ権又ハ物権ヲ移ス契約書ニ因リ又ハ法律上ニテ此等ノ権ヲ移ス可キ効アリト定ムル諸件ノ契約書ニ因リ之ヲ証ス可シ

第七百二十八條 動産ニ付テハ其所有者タルノ名義ヲ以テ正實ニ之ヲ保有スルニ因リ如何ナル人ニ對スルト雖モ其所有ノ権アルノ証ト為ス可シ

第七百二十九條 現ニ動産ヲ保有スル時ハ其所有者タルノ名義ヲ以テ正實ニ之ヲ保有ス

ルモノト看做ス可シ但シ之ニ反シタル証アル時ハ格別ニシテ又遺失盗奪ノ場合ハ例外ナリトス

第七百三十條　不動産ニ付テハ之ヲ得可キノ権アリト述フル者ニ對シ後條ニ記スル左ノ規則ニ循ヒ其物権ノ証ヲ立ツ可シ

第七百三十一條　遺物相續ニ因リ得タル不動産所有ノ権又ハ其不動産ノ分派ハ如何ナル人ニ對スルモ其証書ヲ以テ証ト為ス可シ

第七百三十二條　書入質ト為スヲ得可キ不動産所有ノ権又ハ物権ヲ移ス生存中ノ証書ヨリ生スル権利又ハ土地ノ権、「ユザージュ」ノ権、「アビタシヲン」ノ権、不動産質入ノ権ヲ設ケ定ムル生存中ノ証書ヨリ生スル権利又ハ此數種ノ権ヲ抛棄スル生存中ノ証書ヨリ生スル権利ハ不動産ニ付キ物権ヲ得可シト述フル者ニ對シテハ不動産所在ノ地ノ書入質役所ノ簿冊ニ右ノ証書ヲ登記シタルニ因リ其証アリトス

第七百三十三條　前條ニ記シタル各種ノ権ヲ

確定シ又ハ之ヲ設ケ定ムル裁判言渡書ハ亦之ヲ役所ノ簿冊ニ登記スル可シ

第七百三十四條　不動産讓賣ノ言渡書及ヒ不動産ヲ分派スル証書又ハ言渡書ハ亦前條ニ記スル如ク之ヲ登記ス可シ

第七百三十五條　九年以上ノ不動産賃貸ノ証書ハ不動産ニ付キ物権ヲ得可シト述フル者ニ對シ証ト為サント欲スルニハ役所ノ簿冊ニ之ヲ登記ス可シ

第七百三十六條　裁判所費用及ヒ雇人、手代、工丁ノ給料ヲ除ク外不動産ニ付キ債主ノ先取リノ特権並ニ不動産書入質ノ権ハ後ニ記スル法式ヲ以テ亦之ヲ書入質役所ノ簿冊ニ記入ス可シ

第七百三十七條　登記又ハ記入ヲ為ス可キ時若シ之ヲ為サヽルニ於テハ不動産ニ付キ物権ヲ有シ且法律ニ循ヒ其物権ヲ保全シタル者ニ對シテハ前數條ニ記列シタル各種ノ権ノ効ナシト看做ス可シ

第七百三十八條　然レトモ不動産ニ付キ物権ヲ有シ且法律ヲ以テ其物権ヲ保全シタル者ハ九年以上ノ賃貸ノ契約ヲ九年ニ減シ又三年以上ノ前拂金ヲ三年分ニ減シ其餘分ヲ償還セシムルノ権アルモノトス

第七百三十九條　前數條ノ規則ノ外ニ於テ已レノ証書ヲ役所ノ簿冊ニ登記セシ生存中ノ贈遺ヲ受ケタル者又ハ遺囑ノ贈遺ヲ受ケタル者ハ其登記ヲ為ス前ニ日附ノ慥カナル証書ニ因リ書入質ト為スヲ可キ不動産所有ノ権ヲ代價ヲ出シテ買入レタル者又ハ「ユザーシュ」或ハ「アビシヨン」ノ権ニ因リ入額所得ノ権ヲ代價ヲ出シテ買入レタル者ニ對シ其賣買証書ヲ役所ノ簿冊ニ登記セサル者ヲ述ヘ其者ノ権利ニ抗拒スヲ可カラス

第七百四十條　又右ノ贈遺ヲ受ケタル者ヨリ代價ヲ出シテ其権ヲ買入レタル者自カラ其証書ヲ役所ノ簿冊ニ登記シ又ハ其特権ヲ其簿冊ニ記入シタルニ於テハ前條ニ記シタル買入人ノ権利ニ抗拒スルコトヲ得可シ

第七百四十一條　所有者數人ニ引續ヒテ其所有ノ權ヲ移ス契約書數通アル時ハ其中最終ノ契約書ノミヲ登記スルヲ以テ足レリトス

第七百四十二條　物件ノ賣主ハ其賣買ノ証書ヲ簿冊ニ登記スル前ニ其買主又ハ其代權人ヨリ得タル物權ヲ法ニ適シテ公ケニ為シタル者ニ對シ其賣買ノ契約ヲ解除ス可キ權アル旨ヲ述ヘ其者ノ權利ニ抗拒ス可カラス

第七百四十三條　物件ノ賣主ハ其保有者ノ家資分散公告ノ裁判言渡アル前ニ其賣買ノ契約ヲ解除ス可キ權アル旨ヲ役所ノ簿冊ニ登記セサル時ハ其權ヲ失フ可シ

第七百四十四條　此章ノ規則ハ新ナル裁判所ヲ設ケタル後ニ非サレハ之ヲ適用ス可カラス

第三章　不動産書入質ノ書記局

第七百四十五條　各裁判所ノ書記局ニ於テ各紙面毎ニ裁判役ノ記号ヲ附シ、及ヒ姓名ノ手

署ニ代用スル横線ヲ畫シタル簿冊ヲ設ケ置キ書記官其順序ノ番號ヲ定メテ此篇ニ記スル如ク簿冊ニ登記及ヒ記入ヲ爲ス可シ

第七百四十六條　登記及ヒ記入ハ又書記官ハ前條ニ記スル如ク記号ヲ附シ及ヒ横線ヲ畫シタル簿冊ヲ設ケ置キ登記ト記入ノ証書又ハ目録ヲ其受取リタル順序ニ從ヒ其簿冊ニ記ス可シ

第七百四十七條　其簿冊ハ毎日之ヲ修整ス可シ

第七百四十八條　其簿冊ニ記スル順序ノ番號ハ、第七百四十五條ニ記スル所ト同一タル可シ

第七百四十九條　登記又ハ記入ニハ証書又ハ目録ヲ受取リタル日附ヲ附記ス可シ

第七百五十條　登記又ハ記入ハ証書又ハ目録ヲ受取リタル日ヨリ遲クモ八日内ニ之ヲ爲ス可シ

第七百五十一條　裁判所ニ於テハ其時ノ都合ニ因リ奇數ノ日ト偶數ノ日トニ登記又ハ記入ヲ爲ス簿冊又ハ數箇ヲ設クルコトヲ許

ルヲ得可シ

第七百五十二條

記入ヲ為スタメノ書入質ノ目録ヲ受取リタル時其差出人ニ番號ト之ヲ受取リタル日時トヲ記ス可シ

第七百五十三條

登記或ハ記入ヲ為スニハ剰白、塗抹、書入レ、摩刪等ヲ為ス可カラス○若シ端書ノ符号又ハ塗抹シタル文字アル時ハ裁判後其日ニ之ヲ允諾シ本人ヨリ差出シタル証書ト校合セシ後允諾ノ文ニ其日附ヲ附記ス可シ

第七百五十四條

法律上ニ書記官其公務ヲ以テ自カラ登記又ハ記入ヲ為ス可キヲ定メタル時ノ外ハ本人ノ願ニ因テ其登記又ハ記入ヲ為ス可シ

第七百五十五條

権ヲ移スニ管シ登記ト雖ハ証書中財産所有ノ云フ

第七百五十六條

其登記ノ日附、其番号及ヒ簿冊